

平成31年度事業報告

平成31年度 社会福祉法人 仙台市手をつなぐ育成会 事業報告書

I 全体概況

1. 概況

平成31年度は1カ月のみで新たな元号「令和」となり、10月には消費税率の変更もありましたが、事務担当職員の計画的な準備と、適切な対処により大きな混乱もなく進めることができました。

しかし世界中を震撼させている「新型コロナウイルス」によって、年明けから混沌とした状態が続く中での年度の締めくくりに、残念ながらならざるを得ませんでした。

未だに収束の予見すらできないこの事態にありますが、利用者の命を守るべく健康管理の徹底と環境衛生を整え、感染予防に努めております。また、あらためて当法人事業の持つ社会的な責任の大きさとどのような状況下においても事業を継続していくことの重要性を再確認いたしました。

年度全般を通じ、この感染症への対応が大きな印象にはなっていますが、年度始まって間もなく起きました「工房しらかば利用者の活動中の死去」により、緊急時や不測の事態への対応をはじめ、職員の知識経験や支援技術、リスク回避の態勢につきまして、当該事業所のみならず、法人全職員の教育が不十分であったと大いに反省をいたしました。事故後、全管理者を招集し、それぞれの事業所の緊急時対応マニュアル並びに個別対応マニュアルの見直しを指示し、さらに職員の資質向上に向け教育指導を充実させ、再発予防に努めてまいりました。今後も命と直結する仕事であることを職員全体で意識していくことを確認いたしました。

また「虐待防止」について、階層別研修や定期的なチェックリストの活用を通じ、適切な支援に努めてきたつもりではありましたが、結果的にはグループホームにおいてパート職員による入居者対応が虐待行為にあたると判断する事案が確認され、「戒告処分」並びに仙台市への報告を行いました。研修を重ねてはいますが、実態に反映できていない状況を冷静に受け止め、失った信頼を回復すべく、日々の体制改善を含め、コンプライアンスへの意識向上に引き続き努めてまいりたいと思います。

労務につきましては通年にわたる勤怠管理システムX'sionによる管理となりましたが、まだ不慣れさによる活用が徹底できていない部分は残るもの、長時間労働抑制や年休取得義務等々の働き方改革に繋げる効果となりました。

給付費収入につきましては昨年度より引き続き「就労系」は厳しい状況となっており、全体的には昨年比からは若干は增收となっているものの、人件費も大きく上回り、更に今後「くるみの木建て替え予定」もあることから、利用者サービスを低下させることなく「経営の安定化」に向け、建設的な方針を持ちたいと考えるところです。

また新たに「特定待遇改善加算」が創設され、対象を全職員全職種の法人が指定する資格者へ手当として給付いたしました。このことによりこれまで低迷していた資格取得意識が高まり、支援技術の向上につながる効果を期待するところです。

2. 平成31年度事業の経過について

1. 経営組織活動

- (1) 評議員会
- (2) 理事会
- (3) 監事会
- (4) エリア会議
- (5) 評議員・選任解任委員会
- (6) 施設長会議

2. 内部統制の構築

- (1) 内部監査—国保連請求プロセスに関する業務（18事業所）について
6/17 こぶし 6/24 仙台ふきのとう 6/25 おり～ぶ太白
7/17 おり～ぶ上野山 8/26 ワークスもくれん 8/29 ホープすずかけ
10/23 コスマス 10/24 とちのき 10/25 サポートはぎ
11/28 工房けやき 12/2 くるみの木 12/11 おり～ぶ鈎取
12/12 ワーキングギルド花梨 1/21 工房かやの実 2/20 大野田はぎの苑
2/29 コキア 3/2 工房しらかば 3/10 おり～ぶ五橋
- (2) コンプライアンス委員会—3回実施
9/25—虐待事案（グループホーム2件）検証
12/17—倫理綱領・行動規範の見直し・策定
3/17—コンプライアンス施策
- (3) 虐待防止委員会—4回実施
5/28 年間計画の確認と取組報告
8/27 取組と状況報告
11/26 取組と状況報告
2/25 年間の取組状況まとめと次年度展望
研修会の実施
4/13 新人職員研修（障害者虐待法の理解）
8/21 パート職員研修（障害者虐待法の理解）
11/15 虐待防止研修会開催（虐待防止対策/EDC医療福祉学院講師）
1/16 パート職員研修（障害者虐待法の理解）
11/5・11/6・11/8・12/16・1/28・ハラスマント研修開催
- (4) 施設運営委員会—各事業所において年2回実施
- (5) 安全活動委員会—6回実施
6/28 工房しらかば利用者事故を受け救急搬送マニュアル作成
9/3 安全活動委員会規程見直し
10/17 安全活動委員会規程をもとに工房しらかば事故の再検証
11/27 工房しらかば事故報告書検証
1/21 ヒヤリハットの活性化
2/27 車椅子の公用車乗車中の安全確保

安全活動委員会の再構築

事業所活動中の利用者死亡事故を受け、緊急時・非常事態における適時適切な対応技術の習得、並びにご家族との信頼関係の構築の重要性をあらためて、法人全体で認識し、再発防止の機能性のある「安全活動委員会」となるべく見直しました。

3. 具体的な取り組み

(1) 勤怠管理システムの実効性

4月に改正された「働き方改革関連法案」により、勤怠管理に求められる範囲が拡大され、コンプライアンスが一層重視されるようになりました。

徐々にではありますがシステムを有効に活用できるようになったことで、管理者が職員の就業状況を的確に把握し、過剰労働の早期発見や防止効果が生まれ、職員の健康維持や疲弊回避に繋げています。

労基に關係しては、年休5日取得義務につきましても各事業所管理者はじめ、職員個々人が意識的に計画取得を進めることができました。中には年央に産休に入る職員や退職職員に取得させることが困難なケースもあり、今後の教訓となりました。

(2) 経営企画室：みらい図

経営基盤の安定化に向けて、事業の見直し・将来構想・課題の整理及び改善策について協議検討を25回にわたり実施し、今後さらに中長期計画策定に向け、継続してまいります。

始動にあたり、法人内職員の意識調査を皮切りとし、SWOT分析を実施し、ニーズの高いと判断した「日中支援型グループホーム整備」や「異業種社会福祉法人との連携から学ぶ」ことを素案として提示されました。

今後は具体化とさらに法人も責務を探るべく検討を重ねてもらいます。

(3) くるみの木建て替え

建設後30年近く経過し、木造建築であったことによる老朽化や利用者増による狭隘化により建て替えが必須となり、「日新設計株式会社」に設計を依頼し、2020年度着工の準備を進めました。

JR線路に隣接していることや、建設当初の測量と実測に差異が判明したこと、更には新型コロナウイルス蔓延等から、頻回な打ち合わせを回避させたこともあります、当初の予定よりは遅延が予測されているところではあります。

(4) 地域生活のニーズに応える支援体制の構築

- ・グループホーム事業において、「仙台ふきのとう」と「ヘルパーステーションコスモス」の2事業所が関わっていましたが、業務内容が混在していたことから職員の混乱が生じて来していました。基本的には「仙台ふきのとう」が専任していくことで整理し、入居者やご家族の皆さんにも分かりやすい対応に努めています。

- ・今後のグループホーム整備については「みらい図」からの提案もあり、高齢化した入居者の方の住み替えや、入居希望者の状態像から「日中支援型グループホーム」整備が求められている実情を踏まえ、更に検討していきます。

(5) 人財育成の強化に向けての取組

- ・人財の定着化に向けた労働環境の整備については、ワークライフバランスを意識し、X'sionを活用しての「働き方改革」を進め、長時間労働や疲弊感がないような業務内容や労働環境整備に努めてまいりました。結果としては、年央から数え、結婚転居・転職等様々な事由はあるものの13名の退職者がありました。

- ・新たに創設された「特定待遇改善加算」により、国家資格保持者をはじめとした専門的な技能を評価し、賃金改善を行いました。

(6) HACCP義務化に基づく衛生管理の徹底については、食品製造に関わる全ての事業所で2020年6月正式開始に向けて準備を進めてきました。

(7) 安全衛生活動を推進し、労災を無くすよう努めることについては、残念ながら前年より3割以上増加し27件でした。これは2、3月に急増したことからコロナウイルス感染予防のための休校等によるストレスや人事異動

等の不安定要素が影響したのではないかと推察するところです。

- (8) 「家族会」に対する協力と連携につきましては、職員の労務に影響しないよう、休日の企画には管理者が参加協力し、その機会に保護者との緊密な関係づくりに努めました。

太鼓の演奏会にバザー販売参加をし、企画の盛り上げをしました。

- (9) 職員懇親事業の開催

6/21 卓球 中止 (利用者逝去により)

8/30 楽天生命パークにて東北楽天イーグルスの観戦 40名参加

11/22 夢を語る会 80名参加

1/31 蕎麦打ち会 20名参加

- (10) おり～ぶ太白の安定経営

おり～ぶ荒町を廃止し、太白区土手内に新規事業所として開設いたしました。介護事業所跡の建物を再利用したことから、これまでの借用民家と比較し、安全な環境とゆとりのスペースを提供することができました。しかし当初の予定していた程の利用ニーズに至らず、収支改善の課題が残りました。

4. 組織機能の充実

- (1) 法人本部事務局の強化

事務局次長を新たなポストとして昇格配置したことにより、業務上の任務や責任が明確化され組織強化につながったと考えます。今後さらに内部統制が求められる社会となることを認識したいと考えます。

- (2) 部門間の連携強化

働き方改革を進めていく中で、会議等の面談形式が減少となってきた中で情報の共有化が困難になる恐れもあり、極力エリア会議等を通じ、法人全体への関心を積極的に持つことの重要性を大切にいたしました。

- (3) 関係機関、施設その他の社会資源との連携についてはこれまで同様努めました。

5. 研修体制の充実

人財育成部会を中心として、年間計画に基づき経験年数等階層別に対応した内容で実施いたしました。

法人制度の資格取得に伴う報奨金制度活用者は5名に上り、制度を活用しながら個々の資質向上、更には法人職員全体の支援力向上につなげています。

6. 防災・援助対策の徹底

度重なる台風の影響もあり、それぞれの事業所においてこれまで準備したBCPについて都度見直しをはかるように努めました。感染症への対応については、今回の「コロナウイルス感染」のような大規模な影響は想定しておらず、あらためて検証に入りました。

7. 地域における公益的な取組を実施する責務

- (1) スポーツ・レクリエーション事業

- (2) フットベースボールチームの運営

- (3) 学生向け福祉講座の開催

- (4) 福祉ショップの運営（エスピアル内ゆめの森・生協幸町店はあと）

- (5) 小中学校児童・生徒を対象とした事業所作業体験講座の開催

- (6) 障害のある方向けのおしゃべりサロンの開催

3. 施設・事業における取り組み

施設ごとに生活支援・作業支援・余暇活動支援など数項目を設置し、それぞれの計画・実績・課題ごとの検証を行い、その結果の詳細を各事業報告書に集約した。本報告書には特筆すべき事項のみ掲載する。

◆第二種社会福祉事業◆

◇障害福祉サービス事業（生活介護）

	作業支援	生活支援
大野田はぎの苑	<ul style="list-style-type: none"> ○下請け 取引業者からの仕事量が安定せず、閑散期になる時期が前年度より多かった。新たな業者から受注を受けることができたが、継続的ではなく、作業提供の在り方について課題である。繁忙期には作業ボランティアの方々のご協力をいたしました。引き続き、取引業者との信頼関係を維持し、安定した作業提供を目指していく。 ○染め・機織り 前年度の反省から参加する販売イベントを厳選しつつも積極的に参加した。加工ボランティアの協力をいたましたが、職員が製品化する等の技術を身につけていくことも大切である。染め教室で地域の方々と触れ合える時間は、利用者の毎年の楽しみになっている。児童館イベントで染教室を活用してもらうなど、地域との関わりも多く楽しむことができた。 ○個別活動 下請け作業や創作、ビーズ製品や紙ちぎりからのフォトフレーム作りなどに取り組んだ。また、多くの利用者が取り組めるウレタンちぎり作業も導入した。販売での売り上げもあり作業意欲の向上にもつながった。日々、利用者の作業実態を鑑みて活動環境の見直しを行った。次年度は、活動の中身の見直しや活動時間に緩急つけた支援を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○食事提供 生活習慣病等の疾病や摂食障害を考慮し、個別に配慮した食事提供（カロリー制限・やわらか・一口大等）を行った。また、利用者数が増加したため安全に食べられるよう座席配置の見直しを行った。一人ひとりに合わせて楽しく食べられる食事提供を目指していく。 ○健康活動 高齢リハビリ事業所より講師を招き健康増進活動を行ったが、相手方の都合により後半は実施できなかった。定期的にレクリエーションや健康増進運動を実施、運動の機会を提供した。次年度は新たな生活班を創設し、毎日の軽運動を実施する等、高齢期を迎えた利用者の実態に合わせた活動の提供を行っていく。また、運動量の低下が著しい利用者向けに、健康増進センター指導による活動提供を行っていく。 ○健康管理 健康診断を実施、希望者には個別項目の検診案内を行った。健康状態の変化が著しい方については、個別に関係機関につなぐ等医療との連携をはかった。夏季は熱中症対策のため水分補給の時間を増やし、冬季はインフルエンザ対策のため換気・加湿に務め、蔓延を防ぐことができた。引き続き、看護師と連携して利用者の健康増進に努めていく。 ○送迎サービス 定期送迎を6便運行。その他、必要に応じて臨時の送迎便も運行した。 ○地域交流 大野田小学校、町内会の皆さんを対象とした染め教室を二回開催した。10月に予定していたはぎまつりは台風19号の影響で中止、平日開催とした。例年のような町内会はじめ近隣の参加は難しかったが、秋休み中の大野田児童館の皆さんに参加いただき、小規模ながらも大いに盛り上がった。来年度はぜひ実施し、地域を巻き込んで一大イベントとして盛り上げていきたい。 ○その他 QC手法を用いて職員間で利用者支援について取り組んだ。次年度も利用者支援の質の向上を目指して、手法を活用していく。 ○公益的な取り組み 夏には藍染教室で町内会の方々を対象に施設を開放した。また、地域のお祭り（夏祭り、秋祭り）の際に、はぎの苑のテントの貸し出しを行った。
しらかば	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業支援 ○ 食品加工(ベーカリー) 定期的な保育所・福祉施設への納品、地域のバザー出店の他、新しいバザーへの参加も積極 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活支援 ○ 衛生・健康支援 6月に行った健康診断は、毎年同じ場所で実施していることから、流れを理解し落ち着いて

的に行いお客様との関わりが増えた。また、来年度の販売促進に繋がるよう、菓子類の商品開発に力を入れ、販売できるまでの商品が出来上がった。HACCPや食品衛生法等に対応するため、マニュアル作成を進める一方で、作業室内にネズミが発生し、早急に業者を手配して衛生管理の徹底に努めた。

○ 環境整備

地域清掃については、契約している現場の清掃やしらかば敷地内の清掃を中心に行つた。リサイクルについては、利用者のご家庭や育成会内の事業所、地域の方々の協力のもと、古紙・ダンボール等の定期的な回収を行い、運搬など作業の定着化に繋がった。

○ 機織り

利用者個々のニーズが多様化し、少人数での空間利用や活動内容の検討、高齢化に伴う作業能力の低下の影響で、マンツーマン対応が必要になる場面が増え、生活全般での支援が多く求められた。この為、月1回担当者間の会議等で検討を重ね支援方法等を周知し、統一した対応を行つた。また、工芸展の会場を当年度から変更し、立地の良さから大勢の方にご来場いただき好評であった。

○ 下請け加工

以前から受注している取引業者（割り箸）からの作業量が増加し、利用者も積極的に作業を行つた。また、個々の作業能力にあわせた補助具等を利用することで、作業技術が向上した。一方で、加齢や情緒面の配慮が必要な場面も増えており、更に利用者の特性に合うよう作業環境等の検討をしていく。

取組むことができた。また、毎日のバイタルチェックを看護師が行い、健康管理に努めた。冬季は、インフルエンザ等感染予防のため、施設内の消毒・換気・うがい・手洗い・食前のアルコール消毒を徹底した。

○ 給食支援

利用者個々の状態に応じた食事形態や、疾病に応じた配慮食（個別食・ダイエット食等）の提供を随時行つた。また、月1回給食会議を開催して、支援職員と厨房職員間で食に関する課題を検討し、利用者が安心しておいしく食べることができるよう努めた。

○ レクリエーション活動

午後の活動や行事を中心に、外部講師やボランティア、近隣のサークルの方々を招いて活動を行つた。前年度から提供している各教室も定着し、活動を楽しみにしている利用者も増え、施設外の方々との関わりが利用者の視野の拡大に繋がつた。

○ 地域貢献

仙台市ほほえみの会（里親制度の団体）をしらかばに招き、ベーカリー教室を開催した。利用者も一緒に参加をしたことで、より地域との親睦が深まつた。

○ 送迎サービス

安全安心なサービスの遂行を目指し、ドライバー会議を3ヶ月に1回実施した。悪天候や保護者の高齢化等で送迎サービスのニーズが高まり、送迎コースの再編成を行つた。また、全ての送迎車に添乗をつけて、より質の高いサービスとなるよう努めた。

○ 安全管理

公用車で外出活動中に起こつた事故を受け、個々に応じた緊急対応マニュアルを整備した。ことに疾病がある方や、てんかん発作の既往歴がある方には、主治医の意見を反映した統一したマニュアル作成を行つた。併せて、救急車の手配や緊急時の対応方法について、全職員を対象に救命救急講習を受け知識の向上に努めた。

こぶし 4月に新規利用者1名が入所。利用者の活動提供の充実化と共に、健康面の把握に務め、併せてご家庭との連携を図り、安定した1年を過ごすことができた。

また、ご家族の健康面に合わせ入所施設に移行となり、2月初旬に利用者1名退所した。

○ 作業・活動支援

縫製班では、アクリルたわしや編みぐるみなどの製作に取り組んだ。各バザー等でも好評であり、材料の色や素材について縫製班で話し合い、流行りのデザイン等を参考にしながら収益に繋がるよう模索した。売り上げは継続して安定していた。

七宝班では質の高い製品を求められるため、担当利用者、支援員共に技術向上が課題である。前年度より、以前指導を受けていた講師を迎えて技術指導を受けた。これまでの七宝班の伝統を取り入れながら、新しい製品作りに励んだ。

受注作業においては、昨年よりも作業量が増え、利用者の意欲向上にも繋がつた。一つひとつ丁寧に正確に仕上げられるよう、受注作業を行うメンバーに丁寧に説明し、利用者、職員が協力しながら取り組んだ。

エコ平板は、質の高い製品が求められ、利用者が取り組む工程が限られてしまうことが課題としてあげられる。また、震災復興開発計画の一つとして担つていた作業であったが、復興計画が一通り終えた時期であり、これまでのような需要は求められなかつた。今後は、新たな建築形態として改められる為、その都度対応可能な柔軟な体制を整え、注文に対して計画的な取り組みを行つていく。

アート活動においては、アートカレンダーの制作、販売の他、障害者アートを支援する団体等の協力を得て、アート展への出展も行つた。また継続して、スターバックスコーヒーとのコラボ企画もあり、スターバックス仙台エスパル本館店、台原店、石巻店にアート作品が展示された。

こぶし工房けやき	○生活支援 生活介護プログラムにおいては、ストレッチや軽運動、散歩の機会を多く設けることにより、利用者の高齢化における筋力の維持、健康増進を意識して取り組んだ。 また、ご家庭と連携を図り、利用者の生活状況の把握に努めた。
	○行事 旅行会について、当年度は利用者、職員全員が一同に参加し、日帰りと宿泊コースに分け、一日目については全員で旅行会を楽しむことができた。 また、当年度は8年振りにこぶしまつりを実施した。前日に台風19号が接近し、2週間後に延期し行った。平日でありいくつか内容を変更したが、予想以上の来場者となり大盛況に終えることができた。 年忘れ会、年度末慰労会、その他季節の活動等を実施した。併せて、施設内外の様々な活動を楽しむことができた。
	○健康管理 看護師と共にバイタルチェック等で日々の健康管理を行い、病気の早期発見・早期治療・怪我の防止に努めた。また、手洗いの呼びかけ、施設内の消毒や定期的なオゾン機を使用し行うことでもインフルエンザ等の感染症対策にも配慮した。その為、インフルエンザ罹患者がない結果となつた。
	○防災安全対策 当年度は、これまでの危機管理意識を改め、何より生命維持と安全面を最優先した取り組みとして、職員全員で普通救命講習を受講し基礎的な救命技能を学んだ。併せて、事業所入口にAEDを設置し、事業所内外において瞬時に対応を行えるよう備えた。また、定期的な避難訓練、施設内の自主点検の実施と共に、館内の美化に努め、避難経路の確保を心掛けた。
	○公益的な取り組み 当年度こぶしまつりや災害時の地域との共助を意識し、鹿野連合町内会の催事に職員・利用者と共に参加した。また、こぶしの行事に町内会の方に足を運んでいただいた。これまで以上に地域との交流が図られ、お互いに身近な存在として認識を高めた一年であった。
	生活支援
	利用者および保護者の高齢化による身体状況の変化や、健康面でのケア、利用者同士の対人関係への支援が顕著であり、職員のスキルアップのみならず見立てや計画を立てる力が求められた。また、家族の家庭での介護が困難になってきているケースもあり、今後も包括的な支援が必要になってきている。長期欠席や家庭の状況に応じて訪問支援を実施した。 【給食支援】 給食時は対人関係への配慮から、食事開始時間を段階的に分けることで環境整備を行った。また、利用者の嚥下機能の状態に合わせながら軟菜食やトロミ食、食事量の調整を行った。利用者の高齢化に伴い、嚥下機能の低下が予想される方への支援として、より専門的な見解や助言を他職種から受け、嗜好調査や摂食状態の把握を行った。 【送迎サービス】 家族の高齢化によって送迎が困難になってきているケースや、本人の身体状況の変化に伴う送迎利用者が増えてきた。臨時的に送迎を利用する方は少なかった。また、近年新規利用者の送迎利用のニーズが非常に高く、対応策の検討については課題となつた。
	作業支援
	利用者の高齢化や身体的な能力の低下、相性などに配慮しながら作業環境の設定や整備を行った。将来を見越した支援の組み立てが必要になってきた。 ○木工 収入においては特注やインターネットの注文が例年を下回り、コロナウイルス感染拡大の影響から各種販売会の中止、ナイスハートバザールの売り上げが伸びなかつたが、定例会での販売を設定することで当初の売り上げ目標を達成することができた。次年度は入浴雑貨の現デザインの一新を図り、生産性を向上させていく。また、青森ひば製品のパッケージのリニューアルを進めることで、販売促進を図っていく。 ○手芸 収入においては特注の依頼などが例年よりも少なく、安定した販路の確保が今後の課題である。新製品についてはポシェット、枕、織りクッションを販売開始した。壁掛けを年間で計6回販売したが、干支の壁掛けについては販売訓練等事業において、注文が殺到した。利用者の手芸作業参加に対してのニーズも高まってきた。 ○エコ アルミ缶リサイクルについては缶の単価が下がったが、新製品のリース作りや野菜作り(枝豆、しそ、さつまいも)を行うことで、利用者の活動を拡げることができた。売り上げにおいては達成できたが、在庫を抱えない工夫が必要である。 ○その他の作業(クロネコDM便) 収入においては当初の目標額を達成することができたが、年間の受注量が減少傾向にあるた

め、継続しながらも新たな作業を検討していく。

工房けやき	○健康管理 嘱託医による内科検診を11月に実施し、年金申請の診断書などの相談を受けた。また、毎月看護師による体重・血圧測定を実施し、所内消毒を利用者降所後に毎日実施した。利用者の体調把握と職員間での情報の周知徹底の上、感染症対策を行ったことでインフルエンザ流行期の感染防止を図ることができた。
	○虐待防止に関する取り組み 3か月に1回チェックリストをパート職員を含む支援職員間で実施し、リストの使用や周知することで虐待への意識を高めつつ、職員の支援に対する振り返りを行った。
	○公益的な取り組み 8月に地域工芸教室を開催。東中田子ども会より児童約40名が参加し、けやきの木工室を会場に木材を使ったペン立て作りを行った。年々参加希望人数は増加しており、90名弱のニーズがあり。受け入れの体制と内容の検討も実施していく。

どちのき	生活支援	作業支援
	表面化しにくい利用者のニーズとして、新たな社会資源の利用が挙げられた。このニーズを掘り起こす目的で、新たに社会見学を実施した。各家庭の意向をくみ取りながらグループ化し、レスバイトやショートステイなどの事業所を見学した。ご希望のあった保護者には同行いただき、今後の利用に向けて話し合う場を設けることが出来た。利用者の個別性に即し、将来のサービス利用につなげる一助として有意義な取り組みであった。利用者・保護者の高齢化は更に進み、キーパーソンとなる保護者が病気などで急に不在になるケースもあった。こうしたことから、将来を見据えた関係作りの必要性も痛感した。また、関係機関との密な連携が必要になるケースも増えており、点ではなく面で利用者を支えるネットワークの一角として、当事業所の役割が更に重要性を増していった。次年度も家庭や地域に軸足を置いたサービス展開を目指していく。	
	<p>○基本的生活習慣の支援 利用者一人ひとりの状況について、毎日のミーティングで職員同士が共通認識を持ち、問題の解決に向けて改善を図った。</p> <p>○日常的な社会体験支援 自己選択、自己決定のもと、社会見学を実施。希望に合わせた外食などお楽しみの要素を取り入れながら、社会体験の充実を図った。</p> <p>○スポーツや余暇活動支援 趣味の会はいくつかテーマを提示し、利用者自身に選んでもらう方式とした。そば打ち体験や法人内他事業所も巻き込んだコーヒー講座など目新しい内容を提供することが出来た。</p> <p>次年度も引き続きスポーツや余暇活動等の支援を継続し、健康増進、生活の質の向上をめざしていく。</p> <p>○安全対策 軽微な公用車事故や修理が必要になった事故があった。ヒヤリハット事故報告を隨時行い、丁寧に分析し対応策を講じ再発を防ぐよう努めた。</p> <p>○健康管理 嘱託医、看護師、理学療法士等より専門的な見解やアドバイスを受けて、障害特性や健康状態に対する職員の意識を向上させた。</p> <p>○食事 家庭との連携、栄養士やアーチルの指導のもと利用者の身体状況や嗜好を考慮した食事の提供を行った。配食、外食、お弁当などさまざまな形態で食事提供を行うことにより、利用者の食事に対する楽しみとなっている。</p>	<p>○エコポット 次年度は、さらに利用者のできることを増やし、やりがいをもって生き生きと作業ができるよう支援を行った。</p> <p>○アート製品 当年度初めての取引先より大量発注を受注した。くるみの木の製品とセットで納品し、大きな収入となった。来年度も受注頂けるよう営業を行う。 次年度も定期的に作者と製品化の検討を行い、製作のモチベーションを上げていく。</p> <p>○缶バッジ製品 写真撮影をして作るオリジナル缶バッジは、毎年楽しみにしているリピーターの方もいて好評であった。</p> <p>○受託作業 年度途中で受託量が減少したが、タオル折りの作業が入ることとなった。タオル折りや封入作業には、携わる利用者が多く、意欲的に取り組んだ。作業量は無理のない範囲で調整しながら、次年度も利用者の作業意欲向上とスキルアップを図ることができるよう、取り組んでいく。</p> <p>○公益的な取り組み 近隣にある錦町公園をウォーキングしながら、ゴミ拾いに取り組んだ。</p>

◇障害福祉サービス事業（生活介護・就労継続B）

すずかけ	生活介護	就労継続支援（B型）
	4月より新規利用者1名（生活介護）が入所し、利用者は合計58名となった。うち15名がグループホームに入居しており、日々ふきのとう及びコスマススタッフとの連携に努めた。	

利用者48名が定期送迎サービスを利用、日々9コースを運行した。送迎時の車内車外の安全確保、緊急時の対応等、ドライバーも含め検討し全体化した。

前年度に続き、就労した利用者のアフターフォローを行った。

○ビーズ作業

年間通し計画的に季節に応じた製品づくりを行った。また、利用者の情緒の変化や加齢に合わせた作業環境に気を配った。

○コーヒー作業

通常の豆挽き作業に加えドリップパックの袋詰めにも新に取り組んだ。福祉事業所でつくる地域のおいしいコーヒーとして河北新報の夕刊に取り上げられ外部からの注文も増加した。

○アート作業

フェルトボール、紙ちぎり、ちぎり絵、カレンダーの製作を行う。これらの作品は工房しらかばの主催する工芸展に出展し評価をいただいた。ちぎり絵の作品はコーヒー班のドリップコーヒーの新パッケージのデザインにも採用され多くの方々の目に触れる機会となった。

○リサイクル作業

地域の方々よりアルミ缶と古紙・段ボールを提供いただけたことで、安定して作業量を保証できた。新規の利用者も作業を通してすずかけの利用のリズムをつくることができた。

○個別

利用者の状態に合わせて室内の機能訓練だけではなくアロマテラピーや屋外での園芸、配達を行った。特に園芸の活動においては野菜、花への水やりや収穫した野菜を使用しての料理作りも行い、活動の幅を広げつながるプログラムを開発した。

○全体

利用者の達成感を大切にしながら作業提供を行った。個々の支援のニーズも高まっており状況に合わせて対応してきた。メンバーの活動を検討する際には、それぞれの思いを出し合って全体で納得して取り組めるよう配慮した。（旅行会、マラソン大会、ふれあい朗読会）

販売会が天候により中止、取引先の受注減などにより、収入を伸ばすことができなかった。

班で送迎を行うことにより、全体で朝の会、帰りの会を行うことが定着し、落ち着いて作業に移れるようになった。

○和菓子製造

製品価格の見直し、統一を図った。（350円、3個で1,000円。包材の統一）

種類の見直しを行い、材料の在庫を減らし、購入計画、販売計画を立てやすくした。

HACCP対応の書類と活動の整備と、軽減税率対応の書式の整備を実施した。

○下請け

作業内容や達成感の分かりやすいヨシケイ（エアマットの拭き上げ）の作業にやり甲斐を感じる利用者が多く、1年を通じ安定した作業が展開できた。

オーシャンサプライ（テプラ分解）の作業に5月より取り組み開始した。メンバー全員が、それぞれの得意とする部分で関わっており、安定して取り組むことができた。

アジアプラットフォーム（ホテルアメニティ組み立て）に11月より取り組み開始し、作業工程も多く役割分担し全員が、何かしらの工程に取り組んだ。

○販売

台風等の災害やコロナウィルスの影響で予定していた販売の機会が減り売り上げに影響した。その中で鶴ヶ谷地区のバザーではリピーターが多く来店し地域の中での存在を確認できた。ホープすずかけ2階に販売スペースを設けたが環境的な手狭感、品ぞろえの課題があり、充分に機能することができなかつた。

○食事提供

利用者の個々の嗜好・嚥下や咀嚼等の身体状態に応じ、看護師、栄養士、アーチルPT等の意見も参考に、配慮食提供を行った。併せてグループホームスタッフとの情報共有に努めた。

○健康管理

年に一度の健康診断と併せ、嘱託医による内科検診を実施し、日々看護師によるバイタルチェックを行い、健康状態を把握した。

感染症対策としてインフルエンザ予防接種（任意）の実施と併せ、毎朝の検温、手洗い・ウイルスブロックを行ったが例年よりも実施時期が遅れ利用者とその家族、職員に蔓延する結果となり12月中2日の休所に至った。職員からの感染の拡がりの反省も踏まえ、以後、職員の健康管理も継続し実施していく。

○防災対策

毎月1日実施の災害伝言ダイヤル模擬テストを継続し、避難訓練においては実際のサイレンを使用して実施した。

台風等の災害時には緊急連絡や必要があれば各利用者宅への確認の連絡を行った。

○公益的な取り組み

リース教室 11月16日（土） クリスマスリース教室を実施した。

鶴ヶ谷東小学校の児童11名の申し込みがあり、利用者・職員とリース作成の機会を提供した。

る楽しみが自覚できる活動の提供に努めた。

○行事

生活介護、就労継続B型共に旅行会、忘年会、茶会（年2回）を実施した。さらに生活介護では、スポーツ・レクリエーションフェスティバルの参加や選択行事「じぶんでえらぶ季節の行事」（年3回）を実施した。その他、自治会主催のお茶会や季節行事を楽しんだ。

○健康

健康診断・内科検診、看護師によるバイタルチェックを実施し、利用者が健康に過ごせるよう配慮した。また、感染症予防のため、食前の手洗い支援の徹底と利用者降所後、施設内の消毒、オゾン空気清浄機を使用し感染症予防に取り組んだが、冬期においては、所内でインフルエンザの流行が見られた。感染症の拡大を防ぐため、登所後の検温を実施すると共にご家庭と連携を図り、利用者の体調把握に努めた結果、利用者・支援スタッフ13名の感染に留まることができた。

○給食

利用者個々に合わせた食事の提供、「軟菜食」や「アレルギー対応食」「減塩対応食」「糖尿病対応食（マンナン低カロリー食）」などの代替え食を提供した。また、季節を感じられるメニューの提供も実施した。

○防災・安全

火災や地震を想定した避難訓練を実施した。また、災害伝言ダイヤルの体験を毎月実施した。次年度も様々な震災を想定した訓練を実施すると共にBCP（事業継続計画）の見直しや更新を図っていく。

○送迎サービス

4コース実施した。安全運転に努めた。

生活介護	就労継続支援B型
<p>＜生活支援＞</p> <p>○日中活動</p> <p>外出・ウォーキング・エクササイズ・創作・園芸・DVD鑑賞や個別活動を実施した。また、月2回、外部講師による「音楽教室」も行った。</p> <p>○体力、運動機能維持</p> <p>健康増進センター職員の指導のもと「運動教室」を開催した。また、若林体育館の「シニアエクササイズ」に参加し、利用者の健康増進を図ると共に地域交流の場ともなった。その他、ダンスの時間等、体を動かす機会を積極的に設けた。</p> <p>＜作業支援＞</p> <p>○木工～1年を通して、箸置き・干支マスコット（子）の製作を中心に行った。</p> <p>○手芸～羊毛フェルトを使用した製品作りに取り組んだ。下地となるフェルトボールの作成は、多くの利用者が取り組める作業となった。</p> <p>○下請け～6社からの受託があった。当年度新たに取引を始めた業者からの箱折りがメインとなつた。途切れることなく仕事が入り、一年中コンスタントに取り組むことができた。贈答用ハム商品や歯磨き（オーラルピース）の受託販売も行つた。</p> <p>○リサイクル～新聞紙・段ボール・アルミ缶などを仕分けをし、リサイクル業者に納品した。</p>	<p>＜生活支援＞</p> <p>利用者一人ひとりが「働く」ことを意識できるよう、また社会性を身につけることができるよう配慮した。更に個々のスキルアップと工賃アップを目標に取り組んだ。</p> <p>支援学校の実習生を積極的に受け入れたが、新規利用者の確保に至らなかつた。利用者の高齢化による作業量の低下も見られるようになつた。今後も新規利用者の獲得に向けて取り組んでいく。</p> <p>＜作業支援＞</p> <p>○他事業所への配食サービスに伴う作業と施設内給食提供作業に取り組んだ。</p> <p>○施設内惣菜販売を実施した。</p> <p>○日々の清掃の他、土曜開所にて定期的な大掃除を実施し、清潔な環境作りを行つた。</p>

◇障害福祉サービス事業（就労継続支援B型）

	作業支援	生活支援
工房かやの実	<p>○ベーカリー作業</p> <p>職員体制も変わり、作業技術や製品の質等適時確認を取りながら製造を行つた。材料費の高騰や消費税増税等により、価格設定に苦慮したが、サイズを変えることで金額は大きくは変更することなく販売を行つた。販路の拡大があまり出来なかつた事、大口の契約先との契約延長</p>	<p>○相談援助</p> <p>利用者支援においては、長期在宅者への定期的な訪問を実施し、医療機関や相談支援事業所等と連携して個別支援に取り組んだ。また利用者の体調の変化に併せて通院同行を行ひながら医療機関と連携し取り組んだ。</p> <p>○行事・余暇活動</p>

がなかったこともあり、目標売上は前年度より減収であった。そのため、販売・納品先の拡大を目指すことが課題である。また製品の質や管理に関して、2020年4月から食品表示法の栄養成分表示が義務化したため、職員間で周知し実施した。2020年から導入されるHACCPへの準備は、法人内のベーカリー事業所間で連携を図り準備を行っていく。新製品の製造にも力を入れ、売上向上を目指した。利用者に関して、近年体力等の低下が見られ、従事する利用者が減ってきていていることから、改めて新規利用者の育成と作業技術の維持、更なる作業の定着を図っていけるよう目指していく。

○受託作業

作業室を3か所に分け、利用者のマッチング等に考慮し作業を提供することで、情緒安定に繋がり、作業効率を上げることが出来た。リネンたたみについては、委託先からの依頼で受注量が増えたことで、利用者の意欲向上に繋がっていく。受注量の増加と増税に伴い、タオルの単価交渉も通り、単価アップに繋がった。また箱折り等の作業についても出来る限り業者の要望に応えつつ、ミスを減らし確実に仕事を行った。また新規事業所1社と取引きを行ない、作業内容の拡大を図った。作業の安定受注できるよう受託業者との関係を築いていく。

○エコポット

バザー販売や販売訓練事業等の販売を行ったものの、売上は大きく伸び悩んだ。本期は製造量を減少した。在庫の整理や販売方法の見直し等の検討が必要となった。

○一般就労支援

当年度は一般就労へ結びつかなかったが、一般就労の希望がある方へハローワークの同行を行い、求人票の確認などを行った。今後も隨時相談を積極的に行つた。

○所内における活動提供

ベーカリー作業・受託作業の他に清掃、厨房での調理・食器洗いを行つた。利用者と作業の気持ちの確認を行つたうえで得意とする仕事を見出し、作業プログラムを立てた。また、作業技術だけではなく、社会性や対人関係のマナー等についても適時習得に取り組んだ。

○児童相談所清掃業務

施設外就労として、一般就労へのステップアップの場として実習を行つた。従事者の入れ替わりがあったものの、清掃業務に携わることが出来たことで就労に対する意欲を育むことに繋がった。清掃技術の習得と意識の向上を目指し次年度も提供していく。

作業支援

○ベーカリー

- ・個別支援計画に沿つて個人の希望・状況に応じて各作業日数を設定し取り組み、作業工程・作業予定・内容等理解し易く表示し提供した。
- ・一人一人のスキルや希望に沿つて、目標を立て、技術の向上が見られた。
- ・ハサップの考えを取り入れた食品衛生管理について、マニュアル作りに着手し、準備を進めた。作業工程・動線の見直し等を行い、安全・安心なパンを提供できた。また、害虫駆除を業

行事については、旅行会（山形方面）を実施した。また泉ふるさと祭りと同日に行なう納涼音楽会、忘年会は、キリンビール仙台工場に隣接しているレストランキリンビアポート仙台に貸切バスを利用し行つた。その他、年間7回の日曜日や祝日に余暇活動支援（かやレク）の提供を行つた。内容としては、カラオケやそば打ち体験の他に芋煮会や工作、ダンス、クリスマスケーキ作り等利用者が楽しめるよう企画した。特にカラオケと芋煮会、クリスマスケーキ作りは好評であった。

○避難訓練

年3回の総合避難訓練と地震発生後の火災を想定した避難訓練予定していたが、年度末に、感染症コロナウイルスが流行していたこともあり、2回のみの実施となつた。また消防局職員を招き、パートスタッフ含め職員が普通救命講習を受講し、緊急時対応が出来るよう学ぶ機会を設けた。

○地域交流・地域貢献

地域の町内会祭りへの職員参加や地域の子ども会を対象にしたクッキー教室を開催した。

○事業継続計画（BCP）

定期的な事業継続計画の見直しや倉庫内にある備蓄品等の確認や適時購入を行い、職員間での意識付けを図つた。

○公益的な取り組み

泉中央地域包括支援センターからの依頼を受け、認知症の方々を対象とした認知症カフェの一環で施設の喫茶を提供し、2か月に1回実施した。前年度より参加者は減ったものの毎回15名程周辺地域の方々が参加され、当事業所を知つていただく機会となると共に接客を担当する利用者との関わりも増えてきた。

生活支援

○就労継続支援B型事業として、個人の希望と共に更に生産性を意識した作業内容及び工賃設定を実施した。

○防災及び安全管理

防災機器の点検を業者に依頼し、器具の安全、危険箇所や安全対策への確認が出来た。

○災害時対策

定期的に地震・火災を想定した避難訓練を実施した。経験を重ねるごとに一人一人が迅速に安全に避難できるようになってきた。またBCP作

くるみの木	<p>者に依頼し、清潔な作業環境作りが実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月から始まる栄養成分表示の義務化に伴う製品ラベルの準備を行った。 ・令和元年10月からの消費税引き上げについて、滞りなく取り組んだ。 ・販売について、各区役所、市役所、小学校、児童館等地域を中心に従来の売り方と継続的な全国的発送、そしてJR企画によるナイスハートバザールin仙台駅に参加した。 ・日常の注文について、仙台市内の保育所・保育園の給食用パンやおやつ、他法人事業所給食用パン、法人各事業所給食用パンへの対応について、アレルギー対応を優先し、卵・乳なしや他原材料の調整や代替策等各希望に応え、安全で安心できる食の提供を継続した。また、新規の受注先も増え、収益の向上に繋げた。 ・衛生面について、日々利用者・職員の意識を高め、マニュアルシートに伴った手洗いの徹底と朝作業前の各自チェックシートの記入、そして朝礼での全員互いの衛生面を確認。また定期的な新しい白衣の提供を継続し、食に携わることへの意識を高めた。 ・製造計画に沿って、効率的に働くことによって、製造による職員の残業時間を大幅に削減することが出来た。 	<p>成に伴い、各有事内容と共に安否確認と事業継続に向けた対策案を出し合い、事業所周辺地域のさまざまな理解と有事の際の非常備品を見直し、準備した。（50名×3日分の食料、保存水、衛生備品等）</p> <p>○一般就労支援</p> <p>一般就労を目指す利用者に対して、ハローワーク・障害者職業センター等関係機関と連携し、実習を行う等積極的に就職活動を行い、無事、一般就労へと繋げた。</p> <p>○健康管理</p> <p>健康診断（年1回）、内科検診（前期1回）実施した。必要時、個別対応として通院同行を行い、健康管理における支援を行った。</p> <p>○行事</p> <p>（旅行会）利用者の希望に沿い、福島方面に行った。水族館など観光しながら和やかに過ごす事ができた。</p> <p>（忘年会）秋保ホテルにて、昼食をとりながらカラオケと共に一人ひとり楽しまれていた。</p> <p>○日常生活支援</p> <p>利用者個々の様々な日常生活における課題に対し、生活の安定に努め、必要時居宅サービスで補えない部分について支援を行った。</p> <p>○公益的な取り組み</p> <p>・裏山本丁町内会に対し、防災倉庫の設置場として土地の一部を貸し出した。</p> <p>・宮町地域包括懇談会に参加し、情報の共有や地域の課題解決に向けた話し合いを行う等地域との連携を図った。</p> <p>・東六番丁小学校PTAより依頼があり、こども110番としてくるみの木の登録を行った。</p>
ワーカスもくれん	<p>○作業支援</p> <p>《就労支援事業収入について》 受託・下請けが主となるサービス提供であるが、年度内にあった自然災害（地震および台風等の水害）や昨今の新型コロナウイルス感染症の影響が元請会社にも出ており（所謂コロナショック），年度後期は利用者へのサービス提供確保に非常に苦慮した。そういう状況下において、2社と新たな業務提携を行い、作業確保と受託・下請け収入に繋げることが出来た。</p> <p>《提供作業工種別》 ○箱折り作業 多岐にわたる工程があり、利用者の半数が作業に携わっている箱折り組み立て作業であるが、利用者の作業意欲向上と工賃アップに焦点を置き取り組んだ。ライン作業において、利用者個々が自らの作業に責任を持って取り組んでもらい、集中して取り組むことを全体の目標としたことで現場の士気を高めることが出来た。一方、先に述べたとおり元請会社のコロナショックにより「業務提供が出来ない」といった状況が1～2ヶ月あった。この工種についての収入は昨年を下回った。</p> <p>○青果加工パッケージシール接着作業 当年度、就労支援事業収入の中でも2番目に収入が高い工種となった。一時、自然災害の影響を受け元請会社より請負量が減少した期間もあったが、一年を通じ作業に携わる利用者へのサービス提供に然程影響は無かったのは幸い</p>	<p>○生活支援等</p> <p>○生活支援 年度内に3名の方と新規利用契約を行った。その一方2名の方が退所となった。退所者については雇用型（就労継続支援A型）事業所への移動であった。</p> <p>利用者からのSOSシグナルはサービス利用時間だけではなく、独り住まいをしている利用者において住居内でのトラブル（漏水と停電）が発生し、管理会社や公共機関との連絡調整や立ち合い等も行ったほか、帰路において対人トラブルに遭ったとの相談を受け、関係各所との交渉や情報交換を行なったり、他事業所におけるグループホーム内にて不適切な対応を受けているとの相談を受け、傾聴しながら心身のフォローは勿論のこと市役所や所轄の区役所への報告を行った。行政から調査報告および指導報告の連絡があり、利用者本人より同席を求められ一緒に説明を聞くなど、プライベートにおける対応も生活支援の一環として行った。</p> <p>○命を守るための緊急時対策 利用者の安心と安全を基調とした良質なサービス提供のために、AEDの設置や利用者個々の緊急時マニュアルを作成し、職員個々が救命救急法を身につけ、如何なる状況下でも適切かつ迅速な対応が出来るよう利用者への安全管理と緊急時対応について士気を高めた。</p> <p>○昼食支援 ワーキングギルド花梨による週3回の配食サー</p>

だった。

○ネジ組立作業

前年度に比べ、請負量は横ばいであった。業務依頼は不定期であるが、箱折り作業やシール接着作業を主としている利用者にとって、作業のマンネリ化防止にも繋がった。

○会報新聞折り込み作業

法人の他事業所が業務提携をしており、その繋がりから当事業所も10月より業務請負を締結。納期がある中、利用者は折り込み部数2,000～4,000部を2日間で仕上げられる作業技術がある為、更なる請負量を期待し就労支援事業収入に繋げていく。

○衛生用品パッケージング作業

女性の衛生用品の数量確認と封入およびヒートシーラントによるパッケージングを行う作業を請負った。実際に数カ月間作業を請負うが、結果的に取り扱う製品の材質が軽量かつ破材が浮遊し、異物混入として他の作業に影響が出ると判断し作業継続を断念した。

○施設外就労[コープ富谷共同購入物流センター内成田セットセンター]

破材庫での分別作業に3名、シーラー剥離作業に2名、そして支援職員2名での体制は当年度も継続できた。請負及び賃上げについてみやぎ生協と協議し、改めて業務契約を締結した。結果、利用者の作業時給単価およびジョブコーチに当たる職員の時給単価が上がり収入増に繋がった。前年度に続き、従事していた利用者1名がセットセンターでの経験を経て、就労継続A型事業所へステップアップし退所となった。就労経験および社会経験を積む場としてセットセンターでの作業活動は新規利用者には魅力的でありニーズもあることから、次年度においては作業体験を経て従事出来る利用者を増やしていく。

○施設外就労[外部清掃等]

清掃業務契約を締結しているビル・アパートの外部清掃や、仙台市福祉プラザ内調理室の食器洗浄、飲食店のガラスクリーニングなど、計画的にシフトユニットを組み、よき評価を得る業務を行った。

ビスを継続提供。「食」を楽しみつつ、栄養面から健康への配慮を行った。配食サービス以外の週2回の昼食は、外注弁当を提供した。栄養バランスに考慮しながら、副菜の種類が多い内容の弁当を選択し提供した。

○健康管理

嘱託医の和田山医師による内科検診では、事前にご本人・ご家庭より疑問や不安などを聴取し、問診形式により各利用者へのご意見をいただき、ご家庭と職員間でもその情報を共有した。また、ご本人を支える関係機関と、安定した生活が送れるよう情報と支援の方向性を共有した。

○防災及び安全管理

前期に地震・後期には火災を想定した避難訓練を実施した。訓練を実施する毎に利用者それぞれ身を守るという意識が確実に定着し、建物から外へ出る動きもスムーズで時間も一定している。地震想定では指定避難所の上杉通小学校への避難経路確認を行った。火災想定では煙を吸わないように口元を塞ぎながら行動することを意識づけした。

○公益的な取組と地域貢献活動

公益的な取組について、仙台市より認定を受けた「仙台まち美化サポートー」として、所属している「北なごむ町内会」上杉5丁目界隈の歩道の美化奉仕活動を、年間6回計画を立てて実施した。利用者・職員共に活動拠点である「上杉地域のごみの無いきれいな街・地域貢献」を念頭に置きながら活動した。町内会の地域住民とも、とても良好な関係を保てた。

○虐待防止およびコンプライアンス施策

定期的に虐待防止に対するセルフチェックを行い、都度、振り返りを職員全員で行うことで支援スキルの向上に繋げた。また、年度のコンプライアンス施策として「人権尊重・差別禁止」を掲げ、利用者・職員に掲示周知することで注意や意識も深まり、良い職場環境となった。

◇障害福祉サービス事業（就労継続支援B型・A型）

	就労継続B型（クリーンプラザ）	就労継続A型（クリーンこづる）
コキア	<p>○障害者福祉サービス事業所に移行して5年を経過し、その記念行事として北海道への旅行会企画・実施した。特別感のある合同行事を楽しんだことで、利用者各々が仲間意識を新たにし、と共に、行事は最小限で日々清掃業務に取り組む当事業所の利用者に対し、リフレッシュの機会を提供することができた。サービスの充実を図り情報提供を積極的に行うと共に、個別支援計画に則して利用者個々の思いを尊重しながら、能力や状態像に適した作業提供を図った。そうした対応の中でも、A型とB型の事業所で利用者1名ずつが通所への意欲が遠のき、B型利用者については年次での退所に至る結果となつた。その他の利用者については、意欲を損なうことなく日々通所し、熱心に清掃業務に取り組むことができた。</p> <p>○個々の特性理解に努め適切な声掛けのあり方や作業動線の見直しに努めたことで、前年度に比べて利用者間のトラブル回数を抑え、安心できる環境を提供することができた。障害特性から、一般利用客からのクレームや、委託先からの指導に至る事例もあったが、個別に状況理解を深めることに加え、作業の時間帯や、職員の関わり方を見直すことで改善につながつた。</p> <p>○業務実績においては年間作業計画通りに遂行を果たし、クリーンプラザ、クリーンこづる及び施設外就労事業所である仙台市博物館、仙台市科学館、仙台市役所錦町庁舎の全事業場所の次年度の契約更新を無事に果たすことができた。</p>	

○給付費収入は一部利用者の出欠状況に予測がつかず、結果的に補正後の予算には届かない結果となつた。B型1名については、年齢と体力に合わせた提供日数と時間に改め、対応を始めた。A型1名については、退職の意思も示されており、次年度早々に本人の決断に応じた補充の緊急性が想定される。

○公益的取り組み

各々の受託事業所にて、契約で定められた作業区域外に清掃範囲を広げ、環境整備に努めていく。

コ キ ア	<就労支援>安心と安全を確保した作業の場を提供するよう、階段清掃やワックス清掃、車の往来がある場所での掃き清掃など、危険を再認識して取り組んだ。休みがちな利用者については本人の希望により11月末での退所となつた。作業員数が定まる現場の為、先んじて4月から新規利用者を受け入れていたことで、仕様書通りの人数と業務遂行を果たせた。プラザ男性利用者1名が本人の希望により6時間勤務から8時間勤務へ移行、更に力を伸ばせるよう図った。女性利用者1名は加齢による体力低下を考慮し8時間勤務から6時間勤務へ移行した。	<就労支援>雇用作業員として期待されていることを伝えながら、自覚を持って作業に取り組めるよう努めた。課題となっていた漬け置き用水槽が原因と思われる悪臭について、日々の作業の中で水槽の洗浄を行うとともに水槽を動かして床面の洗浄も行ったことで改善された。また沈殿槽に溜まりやすいゴミなどを定期的に清掃することで、少しでも悪臭の原因になりうる部分の清掃などを行つた。建物及び設備の老朽化の問題も根本的な解決は困難であつても可能な限り有効な方法を考え、作業環境の向上に向けて努めた。
	<生活支援>利用者の日々の状態を確認し、生活習慣（特に食事面）や排泄面での声掛けなど支援した。生活状況に応じて家庭と連携を取りながら、通院同行や身だしなみ（髭剃り爪切り）について支援してきた。家庭環境への配慮が必要な場面もあり、日々の様子を注意深く観察し、職員側から提案できるように努めた。加齢に伴う環境変化への必要性を予測しながら本人・家族との連携を深め情報の共有化を図ることで課題の早期解決に努めた。	<生活支援>喫煙者や糖尿病の利用者に対しては引き続き個別面談などによって状態像の把握と長く働き続けられるように健康に対する本人の理解を深められるよう努めた。体力の低下による疲れ、もしくはそれを原因とした眠気等についても、改善に向け本人の自覚を促した。加えて、支援センターと情報共有をしながら状況の把握に努めた。利用者間のトラブルについては作業・休憩時間の双方で作業動線に配慮した結果、減少がみられた。
	<健康管理>年1回の健康診断と年1回の内科検診を実施した。健康診断は、40歳以上の利用者については「仙台市国民健康保険特定健診」にて受診。家庭で出来ない場合は職員が付き添つた。40歳以下については職員付き添いのもと、結核予防会・興生館で受診。嘱託医による内科健診は2回に分け実施した。新型コロナウィルスの対策により、体温測定や健康状態の把握、手洗いとうがいの徹底に努めた。	<健康管理>健康診断と内科検診を年1回ずつ実施した。40歳以上の利用者は「仙台市国民健康保険特定健診」にて受診した。40歳以下については職員付き添いのもと、結核予防会・興生館で受診。嘱託医による内科健診はクリーンこづるにおいて全員が受診した。年度後半からは新型コロナウィルス対策により、体温測定や健康状態の把握、手洗いとうがいの徹底に努めた。
	<防災管理>福祉プラザ主催の防災訓練に年2回参加した。	<防災管理>防災指導を実施した。環境整備公社での訓練がない為独自で有事を想定した訓練を行つた。

◇障害福祉サービス事業（共同生活援助事業）

仙 台 ふ き の と う	当年度、入居者状況としては、2月までは定員いっぱいだったが、9月より長期入院の方が退院することが出来ず、退居となつた。定員64名中現員63名となつた。 グループホームについては、ゆずの木・もちの木の支援体制の見直しを行つた。これまで夜間支援を居宅介護職員が担当していたが、本来夜間支援はグループホームで行うことになっているため、仙台市と相談のもと、ふきのとう職員で夜間支援体制を組み、朝と夕方の居宅介護が必要な部分については、居宅介護職員で対応するように再編を行つた。しかし、体制の変化により、誤薬や対応のミスが目立ち、保護者からの苦情も多くみられた。 再編に伴い、支援職員の夜勤が多くなり、両ホームの安定化につながつた。当初支援職員をホーム毎に担当割をしていたが、夜勤業務が多くなることで夜勤の必要なホームに支援職員配置が偏り、本来の担当ホームに入る機会が少なくなつたことで、入居者対応及びスタッフ間の情報共有が不十分な状態となつてしまつた。その結果、利用者に対しての暴力や暴言など不適切な支援がみられ、虐待事件として仙台市に報告した。体制は拡大したもの、人員体制が不足しており、通所施設への代替依頼も毎月のように行つた。事業所全体が疲弊感に漲つてゐた。 緊急対応として発作等による救急車要請が数件あり、大事には至らなかつたが、入居者の高齢化や事故への危機対応意識の高まりを感じた。	
---------------------------------	---	--

【次年度に向けて】

利用者の安全安心を基にしたホーム運営を実現できるように支援体制を更に見直し、仙台ふきのとうを北エリアと南エリアに分けて体制の再構築していく。支援職員が自分の担当ホームを中心

に仕事ができる環境を整え、やるべきことを適切な時期に行えるように取り組んでいく。入居者一人ひとりのアセスメントをしっかりと行い、緊急時対応、リスクを再確認し課題解決へ向けた取り組みに繋げられるように、質の向上を目指していく。
また、グループホームへの入居希望者が増えていることを踏まえ、グループホームの再編及び住み替えなどの検討と新規グループホーム開設の方向性を今後も検討していく。

◇生活介護・生活訓練事業（仙台市受託事業）

	生活支援	日中活動支援
太白障害者福祉センター	<p>○生活支援全体 仙台市太白区を中心とした「障害者の地域福祉の拠点」として、障害の重度化、多様化にも応じられる質の高い支援の提供を目指し、関係機関と連携を図りながら、特性やニーズに合わせた個別支援、ケアマネジメントの展開に努めた。また、「サービス等利用計画」における当事業所の役割を明確にしながら個別支援計画を作成し、個々の特性や必要な支援を鑑みた良質なサービス提供に努め、利用者様ひとりひとりが目的や目標を達成できるよう支援をおこなった。</p> <p>○日常生活動作・身体機能に関する支援 加齢や障害に伴う身体機能の低下や、身体の変形が見られる利用者が増加した。身体機能や体力維持を目指し、必要に応じて専門職からの助言を頂いて個別に機能訓練を実施した。心身の状態が悪化することで入院される利用者については、病院のワーカーや相談支援員等の関係機関と連携し身体状況の変化に合わせて退院後の生活をスムーズに開始できるように支援した。また、各々の利用者が関わっている外部のリハビリテーション職員とも連携し、支援者同士の公表の共有を行うと共に、統一した支援を提供できるよう配慮した。</p> <p>○新規利用・移行に関する支援 機能訓練（生活訓練）事業…新規利用者0名。 移行者0名。 生活介護事業…新規利用者は1名だった。新卒者で通所先が決まらなかった、医療的ケアが必要な方の利用を開始した。スムーズに利用できるよう、支援学校等関係機関や主治医、相談支援員と連携を図りながら契約を進めた。</p> <p>○サービスの情報提供や相談に関する支援 年4回支援計画書策定にかかる個別面談を実施した。個別支援計画に関わる内容のほか、家庭での様子や困りごと、今後の生活についてなども確認を行い、本人・家族、支援者との方向性を隨時確認しながら支援を実施した。利用者の当事業者への通所、活動だけに着目するのではなく、家庭環境や本人の課題等、生活全般において支援者で検討すべき内容について、ケア会議への参加、重点的な個別支援等も適宜実施した。</p> <p>○送迎・入浴・給食サービスについて 業務委託法人である（社福）仙台市障害者福祉協会と連携を図りながら送迎（添乗）・入浴・給食サービスを提供した。</p> <p>○家族交流会について 情報交換・知識の共有を図る場として実施していたが、年々、参加家族が減少しており、アンケート調査を実施しながら開催方法について検討した。年1回、12月に開催予定で2世帯が希望</p>	<p>○日中活動支援全体 個別支援計画に基づき、個々の目的や障害特性、身体機能にあった日中活動を提供した。必要に応じ看護師などの専門職と連携を図りながら活動に取り組んだ。利用者の高齢化や障害の重度化に伴い、個別対応の必要性が高まった。</p> <p>○創作・手芸活動について 手芸、描画、貼り絵アート、ちぎり絵、ビーズ細工、スキルビーズ、季節の壁面創作（利用者全員で作成）等を実施した。自分で作りあげる喜びや、皆で一つの作品をつくる楽しさを感じられるよう支援を行った。</p> <p>○レクリエーションについて 利用者の希望を確認しながら、様々なスポーツ・レクリエーション活動を提供した。ボッチャ、ボウリング、魚釣りゲーム、玉入れ、的当て、パターゴルフ、風船パレーなどを実施した。集団活動を通して、他者への関心や関わりが見られた。</p> <p>○外出について 利用者の希望、身体状況やその日の体調に合わせて、周辺ショッピングモール、神社、公園の散策等を実施した。体力維持・向上を目的とし、ウォーキング等の軽運動もニーズに合わせて個別に提供した。</p> <p>○季節行事について 新緑会（5月）、夏祭り（8月）、ハロウィン（10月）、年忘れ会（12月）、書初め（1月）、豆まき（2月）、バレンタイン調理（2月）を実施した。</p> <p>○音楽活動について キーボード演奏やハンドベル等で音を楽しむ、好きなCDを聴きながらリラックスして過ごすなど、気分転換を図る目的で実施した。</p> <p>○社会体験活動について 年2回地域の社会資源を活用し、個々の合せた活動を提供した。夏期は地域の事業所見学、秋期は名取エアリ、野草園等へ外出してファミリーレストランでの食事を楽しむ活動を小グループで実施した。</p> <p>○誕生日外出 意思決定支援の一環で利用者が行きたいところややりたい活動を選択し、実現する取り組みを行った。仙台空港、トランポリンジム、仙台駅周辺で買い物、ラーメン屋さんでランチ、カラオケと外食等、それぞれの希望を実現してきたが、2月以降は新型コロナウイルス感染予防として実施を控えた。</p> <p>○災害時対策・防災計画について センター全体で地震・火災想定と水害想定の避難訓練を2回実施した。車椅子での避難等を繰り返し行うことで、災害時の避難が速やかに行われるよう準備していく。今後は福祉避難所</p>

	<p>していたが、参加家族の予定が合わず中止となつた。当日は、利用者同士で1年間のスライドショー鑑賞会を実施した。</p>	<p>設置業務について仙台市や(社福)仙台市障害者福祉協会と確認していく。</p>
宮 福 城 祉 野 セ 障 ン 害 タ 者 1	<p>生活支援</p> <p><事業全体> 仙台市の運営方針である『地域におけるリハビリテーション推進の拠点として、より高度化・専門化した支援を目指す』こと、また『あらゆる障害に対応できる重層的な相談支援を行なながら、質の高いケアマネジメントを提供していく』ことを基に事業を行つた。相談支援事業所等との連絡調整や仙台市北部発達相談支援センター（北部アーチル）とのケース共有の中で、各利用者やご家族が直面するニーズや課題を再確認し、必要な支援を鑑みた良質なサービス提供に努めた。長年利用されている方の年齢や体力に合わせた過ごし方と、比較的体力がある方の活動提供において、個別や集団の中で、それぞれの求める支援が展開できるようサービス等利用計画における事業所の役割を確認しながら支援を行つた。</p> <p><健康や摂食に関する支援> 日常的なバイタルチェックを行うと共に、看護師及びご家庭と情報共有し、健康状態の把握に努めた。また、嘱託医による内科健診や療育相談、個々のニーズに応じた健康診断を実施しました。気になる状態が見られた際には、看護師の助言をご家族に伝えたり、個別支援として通院同行を行うなど、状態に合わせた支援を行つた。食事に関しては、利用者の状態に合わせた食形態での提供のため、ご本人や家庭及び、言語聴覚士(ST)や栄養士等と連携を図りながら取り組んだ。当年度、医療的ケアが必要な利用者は0名だった。</p> <p><日常生活動作(ADL)・身体機能訓練> 仙台市北部発達相談支援センター（北部アーチル）や主治医、言語聴覚士(ST)等専門職と連携を図り、身体機能維持のための運動や日常生活動作に必要な機能訓練等を行つた。利用者の状態を定期的に確認し、変化に合わせた訓練等となるよう意識した。次年度も、専門職や関係機関と密に連携を図りながら実施していく。</p> <p><家族との連携・相談支援> これまで実施を検討してきた「家族交流会」を2回開催した。日々の活動の様子を伝えるとともに、ご家族同士の話し合いの場にもなり、横のつながりを意識したよい機会となつた。1回目2家族2名、2回目4家族4名に出席いただき、出席された方からは、関心の高さを感じた。また、日々の様子は連絡帳等で情報共有し、必要に応じて電話連絡などで迅速に行ふことを意識した。月1回広報誌を発行し、センターでの活動の様子をご家族にもお伝えした。支援計画書策定・評価に関わる個別面談は年2回実施し、普段なかなか伺えない家庭での様子や困りごと、将来についての話も伺い、ニーズに即した支援ができるよう努めた。サービス等利用計画における役割を認識し、相談支援事業所や他サービス機関との情報共有・連携を図つた。</p> <p><移行に関する支援> ご家族の高齢化に伴い、新たに生活の場（入所</p>	<p>日中活動支援</p> <p>個別支援計画に基づき、ご本人の意思決定支援を丁寧に行なながら、個々のニーズや障害特性にあつた日中活動を提供した。個室対応やパーテーション設置等、安心して活動出来る環境を作ると共に、日々の健康チェックを十分に行つた上で活動を行つた。</p> <p><外出> 当年度は、公用車を使用する機会が減り、遠くへ行くことは難しい中でも、活動に必要な材料の購入や体力維持のためのウォーキングなど、個々に目的をお伝えして外出活動を行いました。個別、集団の機会を作り、気分のリフレッシュにつなげた。</p> <p><スポーツ・レクリエーション> これまで行つてきた活動の他、新たな要素を取り入れ活動提供した。個々の利用者に合わせてルールや道具、環境をアレンジすることでそれが楽しめる内容となるよう心掛けた。集団活動を通して社会性の向上を図ることにつなげた。</p> <p><創作・手芸> 描画や貼り絵、切り絵等を、また、手芸では刺し子やクロスステッチ、布小物づくり等を行つた。それぞれが興味を持って取り組めるような内容を考え、道具を工夫して活動提供した。仕上がった作品は、センター内の装飾や活動に使用したり、作品展示に出品するなど、仕上がりを楽しみに活動できるようにした。</p> <p><調理> 安全面、衛生面に十分配慮した上で、楽しく満足感が得られるよう利用者の希望を取り入れた調理活動を実施した。活動後は「お茶会」を開催し、他者とともに楽しく過ごす機会を作つた。</p> <p><リラクゼーション> 心地よい音楽とアロマにて癒しの空間を作り、オイルマッサージや手浴・足浴等を行い、心身ともにリラックスできる時間を提供した。手足の冷えの改善と体調維持と併せ、集中する活動への参加が難しい方に対する情緒面への効果も期待し行つた。</p> <p><園芸> センター屋外敷地の一角を使用し、野菜の栽培や観賞用植物を育てた。収穫の楽しみに向け、水やり、除草作業にも役割を持って取り組んだ。収穫した野菜は調理活動で使用し、収穫の喜びを共有することにつなげた。</p> <p><QOL向上活動> 利用者1人ひとりの生活の質を少しでも高め、社会的経験の拡大を図ることを目的に実施した。個別での外出や、カラオケ、外食、足湯の他、ご本人から表出した言葉や気持ちに沿う形で、他者を外出に誘う活動につなげたり、調理活動を行うなど、経験の拡大に努めた。</p> <p><季節行事> 花見（4月）、七夕（7月）、年忘れ会（12月）、年初め会（1月）、慰労会（2月）を</p>

やグループホーム等)を考える意向を示している方が確実に増えている中、希望する方には相談支援事業所と連携し、見学や実習付き添いを行ふとともに、ご家族にはサービスの仕組みや準備について情報提供などの支援を行つた。他方、他事業所との併用利用から完全移行に向けて支援していた方については、ご家族及びご本人の精神的不安が大きく、完全移行には至らなかつた。臨時に支援者会議を開催するなど働きかけ、支援状況を共有するなど対応してきましたが、引き続き併用いただく中で、安心できるかかわりができるよう引き続き努めていく。当年度、事業利用開始2名、利用終了した方は3名おり、他事業所移行が2名、家庭の都合による方が1名であった。

実施した。行事の中で行った創作や外出等を通して、季節感を味わう機会をも作つた。

〈センター内事業における連携〉

三団体会議や連絡会を月1回開催し、センター全体での情報共有に努めた。また、送迎・入浴・給食についてそれぞれ担当職員を置き、(社福)仙台市障害者福祉協会と密に連絡・確認を行いサービスの質の向上に努めた。

〈災害時対策・防災計画〉

センター全体での避難訓練を年3回実施した。当年度は、10月の台風19号襲来時に福祉避難所を設置し、1家族2名が利用しました。生活介護事業利用者であったため、運営に際し支援情報を提供した。その後、訓練及び実際の対応を振り返り、BCPの見直しと仙障協との協力体制を確認した。

〈職員研修〉

積極的に外部研修に参加し、専門性の向上に努めた。

◇サポートはぎ

【訪問療育相談事業】

嘱託の心理士により月1回の事業を行つた。発達障害者の訪問療育を行い、定期的な面談による社会性の向上、不安の軽減を図つた。

【外来療育相談事業】

各家庭で主治医への相談を行なつてゐるため実績には至らなかつた。

《次年度に向けて》

継続的な事業の実施を行い、委託ケース(本人・家族)の安定を図つていく。

【療育技術指導事業】

他の機関と事業内容が重複しているため、事業実績には至らなかつた。

内部での技術指導は適時行い、その内容を相談員が事業所やご家庭に伝えていった。

《次年度に向けて》

事業内容や実施方法を検討し、専門職からの助言を発信していく。

【仙台市委託相談事業】

・軽度知的や発達障害のある方の金銭面や人間関係、就労等に関する困りごとの相談は継続的にあり、原因として幼少期の家族関係・虐待経験等が起因していることも多かつた。
・就労継続支援A型の事業所を探したいという相談について、基本的にはハローワークを通すことになるが、A型の事業所は市内全体的に少なく、情報提供することも難しい状況である。
・障害児に関しては公所、病院ワーカー等より、重度知的や医ケア児童について、将来の生活に向け関りを持って欲しいという依頼が多かつた。ただ、要医ケアだと放デイをはじめ、使えるサービスが少なく、加えて家族からのネグレクト等があつたり、母親も療育手帳を所持している等、療育の部分で問題があるケースも多く、対応に苦慮した。

【指定特定・障害児相談支援】

・本人に障害があり、親も高齢で将来の生活に不安を抱えている相談は多かつた。ただ、住まいの場を探す場合、対象になる方が重度の知的・精神疾患・行動障害のある方だと軽度の方よりも対応できるグループホーム・入所施設等が少なく、繋ぐことが困難である。また、特に休日の移動支援に関しては、市内全域でほぼ空きがない状況である。

《次年度に向けて》

委託されるケースは困難な内容が多く、今後も減ることはないので、相談員のアセスメント力とマネジメント力が必要であるため質の向上を図るとともに、相談員が一人で困難ケースを抱え込んでしまわないよう支援体制を整えていく。また、各機関とも連携を図りながらチームアプローチを確立していく、事業所内でのケースレビューや事例検討を定期的に実施し、アセスメントや見立てを全体で検討していく。

【公益的な取り組み】

太白区自立協議会で地域包括との連絡会を定期的に開催したり、実務者ネットワーク会議のエリア会等で連携を進めていく。また、包括の地域会議内で研修を実施し、障害理解や相談支援事業を知つていただく。

サロン活動について、当年度はひきこもり等在宅でサービスにつながっていない方を中心にカラオケ、外食の同行といった余暇支援を実施した。

《次年度に向けて》

事業所として、積極的な地域の働きかけや資源の開拓、課題抽出という点では不十分さもあり、

	<p>今後も課題である。 サロン活動については、参加人数は少ないものの、参加された方の満足度は高く、より参加しやすい日程等検討ながら継続していく。</p>
--	---

短期 入所 事業	<p>【利用状況】 当年度も家族支援事業との使い分けをしていただくため、ご家族の入院・手術・葬儀に関する理由に限定しご利用いただいた。利用泊数678泊（月平均約56泊。利用率約62%※定員3床）の実績であった。年度途中の職員退職による人員減等の事由もあり前年度比91泊減ったが、新たに複数の加算を申請し給付費は約30万減に留めることができた。傾向として法人外・学齢期の方の利用が増加した。新規利用契約は法人内外を含めて46名であった。割合としても法人外・学齢期の新規契約が多かった。前年度に引き続き、ご家族の長期入院の他、虐待に関する分離介入による理由で支給量を超えた所謂“ロングショートステイ”的利用もあった。</p> <p>【次年度に向けて・今後の課題】 保護者の入院・手術・葬儀を理由としたニーズは依然として高いが、満床やスタッフ体制が整わない理由で断わらざるを得ないケースが度々あった。ご本人・保護者の高齢化による利用ニーズはこれから益々増えてくることが予想されるため、パート支援職員の確保も含め、緊急時・非常時に確実に応えられるような体制整備が必要である。また、当事業所自体が築15年を経過するため、設備の不具合も出てきており（空調機器等）、大規模修繕も必要となってきた。新型コロナウイルス禍ではあるが、緊急時・非常時の『止められないサービス』の一つとしてBCPの再策定も含め、対策を十分に検討し、実施していく。</p>

◇ヘルパーステーションコスマス

ヘル パー ステー ショ ン・ コスマ ス	<p>【移動支援】 当年度は仙台ふきのとう並びにコスマスの再編を行い、グループホームについては兼任職員が居宅介護や移動支援サービスに当たることとし、一方、コスマス専任職員はグループホーム以外の在宅支援を強化することとした。移動支援については、土日祝の外出支援が多く、イベントが重なる事で希望調整が必要となり、満足いただけるような時間帯や回数に課題が残った。また、新型コロナウイルス感染について、3月初旬に仙台市より外出を伴う移動支援事業サービスの提供について、3つの密を避けるよう通知があり、結果、キャンセルが相次ぎ、前月比で8割以上の減収となった。利用者及びヘルパーの安全を最優先に、今後のサービス提供のあり方について検討していく。</p> <p>【居宅支援】 仙台ふきのとう並びにコスマスの再編の中で、グループホームにおける夜間体制の見直しを行った結果、ふきのとうは夜間体制加算による収入の部分で增收になったものの、反面、夜間の居宅請求は出来ないので、その分のコスマス収入が減った。一方、一般在宅利用者への入浴介助及び通院等介助の新規契約を増やすなど減収部分への補てんも努力した。</p> <p>【登録・パートヘルパー】 当年度はコスマス登録ヘルパー向けに2回内部研修（マナーアップ、感染症対策）を実施した。新規で登録ヘルパー2名が増員と喜んでいたが、一方、2名が終了となり、まだまだ支え手が不足しているので、引き続きヘルパーの人財確保に努め、利用者が安心して過ごせる支援体制を構築していく必要がある。併せて、日中支援登録ヘルパーからの支援活動相談についても、随時の打ち合わせや支援同行にて、迅速に対応をしていく。</p> <p>《次年度に向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズに対応できるよう、継続してヘルパーの確保に努めていく。 ・年2回以上のヘルパー向け研修を実施し、支援者の資質向上に努めていく。 ・定期的なモニタリングを行い現状把握し、より適切なサービス提供に努めていく。 ・居宅介護事業中心に利用者及び家族の高齢化対策に取り組んでいく。

◇児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業

おり ぶ 上 野 山	<p>前年度からの継続利用者が28名、その後4名の新規契約者と1名の年度途中での契約終了者がおり、最終的には31名と登録者数は前年度と同数だった。</p> <p>児童発達支援については、問い合わせは2件あったが受け入れには至らなかった。</p> <p>放課後等デイサービスの実績としては、曜日登録者が若干減少したこと、体調不良や荒天・感染症による休校等の理由による急な欠席の増加、年度末には新型コロナウイルス拡大予防の為、児童館とともにご家庭での待機が可能な方については利用自粛のお願いをしたため、実績としては前年度を大きく下回る結果となった。土曜についても、支援度の高いお子さんが多いことや平日の放課後を希望されるお子さんが多い等の理由から、定期利用の大幅な拡大には至らず、全体を通しての平均利用者数は8.7名となっている。定期曜日以外でも利用希望がある場合は可能な限り受け入れ人数を増やす、また土曜日等事前に定員に空きがある日については個別に誘い掛けを行う対応をすることで利用に結び付くこともあったが、全体的な利用増加にまでは至らなかった。</p> <p>児童の過ごしやすさや保護者のニーズを損なうことのないように、職員間の打合せや連携を密に</p>

図った。また、季節や利用児童に応じて楽しめそうな行事を企画し、おり～ぶ五橋や上野山児童館とも定期的に合同行事等を行った。本来であれば年度末にもおり～ぶ釣取や児童館との合同行事を企画していたが、新型コロナウィルス感染予防の観点から3月の合同行事や調理活動はすべて中止し、単独での受入れへと変更していった。

メンタルヘルス、嚥下・口腔ケア、各事業所の取り組み発表、安全運転講習という内容で、おり～ぶ全体での内部研修を全4回実施した。各事業所の取り組み発表では、各事業毎にテーマを決め、約5か月間の実践を通しての報告会を行った。実際に自分の事業所での取り組みを検討したり振り返りを行うことで、職員間で課題を共有し、改善点を検討・実践することができた。今後も継続して子どもたちの過ごしやすさにつなげていく。また、その他に毎年実施している児童館職員と合同での救命講習の実施や職員が意欲を持って外部の研修への参加、虐待防止チェックリストを定期的に全職員が実施する等、知識や技術の習得と日々の支援方法の振り返りを行い、研鑽に励んでいく。

前年度同様に保護者研修会としており～ぶ4か所合同で「茶話会」を実施した。少人数での開催となつたが、参加者一人一人が聞きたいことを気軽に聞き、話し合える場を提供することができた。おり～ぶ卒業生の保護者にも参加してもらったことが、将来のことを知りたいというニーズと合致しており、参加者から満足の声が聴かれていた。また事前にアンケート調査を実施し聞きたい情報を確認し、成人施設の保護者に回答してもらったものをもとに話をすすめたことも良かった。

放課後等デイサービスガイドラインに沿って、事業所の自己評価と保護者による評価を実施した。3月にホームページで公表してた。

年度末に緊急事態宣言が発令され、今後は仙台市も対象になると想定できるため、支援学校や市立小学校の休校、家庭環境を把握しニーズに応えながら、利用児の命を守ることを優先に感染予防に努めていく。

＜次年度への展望＞

(1) 利用者本人とその家族が安心して豊かな毎日を過ごせるよう、それぞれのニーズや生活環境、本人の特性や発達段階に合わせた良質なサービスを提供し、家庭や学校、その他の関係機関との連携を図りながら適切な支援を行っていく。

(2) 安定した事業所経営を意識し、特に児童発達支援事業登録者確保に努めていく。また、サービス内容や提供時間等、利用者及び家族のニーズに対応できるよう、臨機応変に見直していく。

(3) 内部研修や外部研修等で技術と知識を習得し、職員一人一人が児童や障害分野の専門性を高め、利用者のライフステージを意識しながら日々の支援を提供していく。また、上野山児童館と合同で救命講習に参加し、職員一人一人が命を守る知識とスキルを習得していく。

(4) 子どもの成長を見守り育んでいける地域を目指し、上野山児童館と連携を図りながら地域の人達との交流行事へ参加していく。

(5) 保護者と更なる連携を図り、茶話会等で事業理解を進める。事業所評価を実施し保護者の意向を把握、公表しながら開かれた事業展開を行っていく。

前年度からの継続利用者30名（児童発達支援事業5名・放課後等デイサービス事業25名）、新規利用契約者4名（放課後等デイサービス事業）の合計34名で当年度事業開始。年度途中で3名（児童発達支援事業1名・放課後等デイサービス事業2名）が、家庭の都合等により利用契約終了し、年度終了時の利用契約者数は31名であった。当年度6年生になる児童がおり～ぶ太白へ移行し、在籍6年生が1名となった。

年度途中での利用や次年度へ向けた問い合わせ、小学生になる子どもの保護者による放課後等デイサービス事業の見学があった。年度途中での利用については、学校・自宅送迎が折り合わず契約には結びつかなかった。また、おり～ぶ太白との送迎協力の継続か単独送迎かという課題もあり、次年度の受け入れ状況の見通しが立たず新規利用問い合わせへの返答が1月末になり、他事業所を利用するとの回答が数件あった。1月末に、次年度から単独送迎を実施することになり公用車の購入を決定した。それに伴い、これまで送迎を行っていなかった学校へも向かえるようになり、新規利用者の獲得につながった。

前年度から仙台リゾート＆スポーツ専門学校の協力を得て取り組み始めた土曜日行事の「運動教室」は、年間5回計画し、学生主体で4回開催することができた。新型コロナウィルスの影響で、3月は事業所職員による「運動教室」に変更した。次年度も「運動教室」の継続していく。

おり～ぶ上野山と合同行事「水遊び」を開催し、未就学児・小学生同士の交流をおこなった。おり～ぶ上野山を会場に、普段とは異なる環境でも「水遊び」を通しのびのびと活動することができた。次年度も交流行事として継続していく。

おり～ぶ太白が担当し開催する「内部研修」や外部研修に職員が積極的に参加し学びを深めることができた。事業所内での取り組みでは、支援の質の向上を目指しプライバシーに配慮した支援の定着を目指した。パート職員とも話し合いをしながら、職員全員が共通認識をもち支援できるように努めていく。今後も支援の振り返りをしながらより良い支援となるよう話し合いを重ね取り組んでいく。

おり～ぶ鉤取が担当し開催する保護者研修会の「茶話会」へ参加し、保護者のニーズを改めて知ることができた。現在から将来まで幅広い内容の話を聞く機会となり、おり～ぶを卒業後の生活も視野に入れた視点を持つことの大切さを学ぶ機会となった。

おり～ぶ五橋としては、4事業所が加盟している「放課後ケアネットワーク仙台」を担当した。執行部の一員となり、会議への参加・啓発事業を担当し、ネットワーク加盟団体を掲載したチラシの作成をおこなった。

その他、事業所の自己評価・保護者による評価も実施し3月にホームページにて公表した。

＜次年度への展望＞

(1) 利用者本人とその家族が安心して豊かな毎日を過ごせるよう、ニーズや生活環境、本人の特性や発達の状況に合わせた良質なサービスを提供し、家庭や学校、その他の関係機関との連携を図りながら適切な支援を行っていく。

(2) 職員一人ひとりが児童や障害分野の専門性を高め、外部研修等へ積極的に参加し技術と知識を習得し、幼児から小学生、中高生、成人へという発達状況や発育の流れを学び、利用者のライフステージを意識しながら日々の支援を提供していく。おり～ぶ4事業所での内務研修を実施し、連携を深めていく。救命講習を受講し、緊急時に対応できるスキルを身につけていく。

(3) 子どもの成長を見守り、育んでいける地域づくりの一助となることを目指し、近隣への外出を積極的に行っていく。福祉プラザ館内の入居団体主催の催し物等への見学・参加をし、社会資源を活用しながら交流を図っていく。

(4) 保護者と更なる連携を図り、茶話会等で事業理解を深める。事業所評価を実施し保護者の意向を把握し、公表しながら開かれた事業展開をおこなっていく。

(5) おり～ぶ五橋を卒業する児童の移行先として、おり～ぶ太白を始め地域の事業所との連携を図っていく。

(6) ヒヤリハット作成効率化を全職員により行い、改めて利用者の安全を確立していく。

(7) コロナウイルス対策の徹底をしていく。

おり～ぶ太白

おり～ぶ荒町より継続利用の方24名、新規契約13名、年間の契約者数は合計37名となった。移転に伴う活動環境の変化による利用者への影響はほぼ見られず、開所当日より、広く使いやすくなつた室内を各自好きな場所、落ち着く環境を見つけ、安心して過ごせていた。また、行動範囲も広くなつたことによる、事故や怪我等対策の為、コーナークッショն等で安全対策を講じ、活動場所も内容により区切れるよう、視覚的に把握しやすい環境整備を行うことで、利用者、家族に安心して利用していただけるよう努めた。

日々の送迎や支援については、おり～ぶ五橋と協力体制を組み、定期的な打ち合わせを行ひながら、送迎の補助体制を強化しつつ、利用数の確保に努めた。五橋、太白と互いに送迎場所や乗車人数を調整し、協力し合うことで、効率良く受け入れることができ、事業所内受け入れ体制の強化にも繋がつた。

職員の人財育成として研修企画、参加に重点をおき、外部講師を招いてのメンタルヘルス研修、口腔嚥下講習、安全運転講習の他、おり～ぶ各事業所による課題の見られる支援面の取組み事例発表を実施した。日々の支援を振り返りながら、質の向上を図るべく実施できた。おり～ぶ合同の保護者研修として、茶話会(情報提供や保護者同士の意見交換の場)を企画し、卒業生保護者にも参加していただき、育成会施設を利用されている卒業生保護者へはアンケートの協力依頼を行つた。当日は、保護者同士の交流を図りながら、職員自身も保護者の思いやニーズを改めて知ることで、将来の生活について一緒に考えていく機会となつた。その他、事業所の自己評価、保護者等評価を3月に実施し、法人ホームページへの掲載を行つた。

地域貢献活動として、事業所室内を提供し、町内会主催の講習会を実施。また、町内会会員の方々を招いて、日常生活を営む上で必要な機能動作の保持、向上を目的とした1時間半程のレクリエーション教室も行つた。今後も継続して開催し、地域社会に開かれ信頼を寄せられる事業所を目指して取組んでいく。

＜次年度への展望＞

(1) 利用者本人とその家族が安心して豊かな毎日を過ごせるよう、それぞれのニーズや生活環境、本人の特性や発達の状況に合わせた良質なサービスを提供し、家庭や関係機関との連絡を密に取り、利用者の心身の状況や活動の様子等について情報共有を行い、協力体制を整えるとともに連携を図っていく。

(2) 利用者一人ひとりの障害特性や発達段階を把握し、本人及び保護者のニーズを基に個別支援計画を作成し、生活能力向上に向けた取組みを行つてていく。また、個々の得意とする活動や能力に配慮し、満足感や達成感を得られるプログラムを提供することで利用者本人の自己肯定感を高められるよう支援していくとともに、将来に向けて本人の能力を最大限に活かせるよう、段階を踏みながら自立・自律に向けた取組みを行つていく。

(3) 対人関係のマナーやルールを学ぶ機会として集団を意識した活動内容を設定し、実践的に他者と協同する術を身につけられるよう支援していく。また、友達と一緒に余暇を楽しむ取組みとして、クラブ活動のようなメニューを用意し、好きな活動を選択し、主体的に余暇活動を楽し

お 太 白 ぶ	<p>めのように支援していく。</p> <p>(4) 町内会行事への積極的な参加と、事業所を貸し出しての会議、講習会等の開催、レクリエーション教室を実施し、地域貢献活動として継続的に取組んでいく。</p> <p>(5) 保護者と更なる連携を図るため、保護者からの評価を実施し、意向を把握し、茶話会等で事業理解を進めていく。</p> <p>(6) 職員の救命救急講習を実施し、救命処置知識と技術の向上を図っていく。また、事業所内の環境衛生に努め、感染症の拡大防止対策を図っていく。</p>
	<p>【登録数・利用実績・収入増への取り組み】</p> <p>前年度から継続の利用児が30名で、おり～ぶ上野山からの移行利用児が1名であった。また、年度途中での新規契約児が3名あり、計34名の登録となった。前年度より9名少ない年度開始となり、上半期は利用実績が伸び悩んだが、利用日増及び新規契約と祝日開所に取り組み、下半期は実績が持ち直した。利用児に大きな怪我や事故なく過ごすことができた。</p> <p>赤字経営改善のため、おり～ぶ太白との合併も試算したが、更なる赤字増加と継続受け入れできない利用児が出ることが明確となり断念した。</p> <p>そのため次年度予算の黒字化を目指し、数値目標を、①祝日を含めた300日開所。②平均11名/日利用実績確保。③延べ3,300名受入と給付費収入3,600万円。として、当年度中の月平均11名/日利用達成に取り組んだ。</p>
	<p>【新型コロナウイルス感染拡大による学校臨時休業への対応】</p> <p>月平均11名/日利用の目標を1月によく達成し、その水準を保ったまま新年度に入る構想であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、2月から利用実績が減少した。</p> <p>特に3月からは全学校が休校措置となり、教育委員会と学校の対応が毎週変化し、児童と保護者の混乱を招いたが、事業所としては厚生労働省と仙台市から放課後等デイサービス事業所に期待された役割を鑑み、できる限り各家庭の状況に応じた受け入れを行った。</p> <p>結果として前年度を超える利用実績数と給付費収入にはなったが、年間通しての延べ利用実績は2,879名。平均利用は9.86名となり、定員数である10名を平均とした2,920名には41名届かなかつた。</p>
	<p>【移転構想と環境改善】</p> <p>トイレが1ヶ所のみという長年の課題を解決するため、年度当初から移転構想を立て、不動産とネットでの情報を収集しながら物件探しを行った。しかし、①現在の利用児を送迎できる立地。②経営が継続できる家賃。③トイレ2か所以上+十分な活動スペース+駐車場の確保。の条件を叶える物件を見つけることはできなかつた。</p> <p>そのため、これまでの借家のまま浴室を改装し、水洗式ポータブルトイレを設置することで、環境改善を行つた。利用児は新しいトイレを抵抗なく使用していた。</p>
	<p>【保護者茶話会】</p> <p>当年度もおり～ぶ四事業所合同の保護者研修「茶話会」を上半期と下半期の2回実施した。現在籍児から高等部を卒業した児童の保護者に対して、成長（母親と男児の関係性）・進学（地域の支援学級か支援学校を早い段階で決めなければいけない）・進路（希望先の実習はおろか見学すら学校から許可が出ない）等の質問と相談が出され、卒業保護者より経験談を交えた具体的な助言をいただいた。</p>

◆公益事業◆

◇サポートはぎ

診療所	<p>主に障害支援区分認定に係わる医師意見書の作成や年金に係わる医師の診断書などの依頼を状況に応じて受け付け、その都度作成を行つた。また、診療外来も月平均4～5件での依頼を受け付け実施した。</p> <p>《次年度に向けて》</p> <p>障害支援区分認定の医師意見書作成を中心に行い、必要に応じて診断書依頼も受け付けた。</p> <p>医師との連絡を密にし、診断書の作成依頼や診療相談に応えられる体制を整えた。</p>
	<p>【登録者数と傾向】</p> <p>当年度末での登録者数は230名（前年度末201名）で、全体のうち18歳以下の方が23名（10%）、18歳以上の方が207名（90%）であった。また、内訳として法人事業所利用者124名、法人外83名、学齢期20名、未就学児3名であった。</p>
家族支援等推進事業（レスパ	<p>【利用実績時間数】</p> <p>当年度利用実績は、日中介護が2,700時間、送迎が579時間、宿泊介護が447泊（4,470時間カウント）の総計7749時間となつた。（前年度比で日中介護-156、送迎-59、宿泊介護-370の総計585時間の減）登録者の増加が利用時間の増加には結びつかなかつた。</p> <p>利用時間減少について要因のとして、短期入所同様、職員の年度途中の退職等、受入体制が整わない時期があったことや2～3月は新型コロナウイルス関連の利用控えの影響もあつた。一方で、短期入所とレスパイトを混同し「レスパイトも緊急の理由ではないと利用できない」と勘違</p>

イト イ ト シ 家 族 支 援 等 推 進 事 業	<p>いされた保護者の意見も多く聞かれ、秋口には法人内各事業所の保護者定例会で改めてご説明させていただいた。そのこと也有って、10～12月の利用率はとても高かった。</p> <p>【次年度に向けて・今後の課題】</p> <p>3月に仙台市障害者支援課から、レスパイト事業自体の大きな見直しの時期として、令和2年度途中をもって終了と短期入所事業及び市の地域生活支援事業である日中一時支援事業への転換について話が出された。新たに示された要綱によれば9月末をその時期とされている。登録介護人（有償ボランティア）についても全員パート支援職員としての契約となった。（令和2年4月より）それに向け、短期入所の増床（3⇒6）への準備に加え、現在の報酬単価では運営が非常に厳しくなる日中一時支援事業について制度の見直しを市の担当課に働きかけていく。（市レス連協として）保護者の休息・介護負担軽減として非常にニーズの高いサービスでもあったため、なるべく混乱が少なくスムーズな移行となるよう努めていく。</p>
環境業務受託事業	<p>(1) 環境整備業務 福祉的就労の場として一般就労に向けて実体験を積み上げた。 ・仙台市体育館（従事者3名、支援職員1名）</p> <p>(2) 環境整備員指導業務 障害者雇用の就労先において清掃業務の指導を行い職場定着に努めた。 ・仙台市戦災復興記念館（支援職員1名） ・仙台市4市民センター（支援職員1名） *北山、貝ヶ森、柏木、中山</p>

II 個別概況

1. 経営組織活動

(1) 評議員会 1回

- ◇令和元年6月21日（第68回）
第1号議案 平成30年度計算書類及び財産目録の承認
第2号議案 理事6名及び監事2名の選任
第3号議案 定款の一部変更

(2) 理事会 7回 (そのうち1回は、省略理事会)

- ◇令和元年6月6日（第134回）
第1号議案 平成30年度事業報告及び平成30年度決算書類の承認
第2号議案 諸規程の改正
①理事会運営規程の一部改正
②職員給与規程の一部改正
③障害福祉サービス事業就労継続支援（B型）ワークスもくれん運営規程の一部改正
④障害福祉サービス事業生活介護 こぶし 運営規程の一部改正
第3号議案 定時評議員会の招集
第4号議案 苦情解決第三者委員の選任
- ◇令和元年6月21日（第135回）
第1号議案 理事長の選任
第2号議案 常務理事の選任
第3号議案 各担当理事の選任

◇令和元年9月25日（第136回）

- 第1号議案 諸規程の改正
①職員給与規程の一部改正
②パート職員等就業規則の一部改正
③雇用職員就業規則の一部改正
④産前産後休業等代替雇用職員就業規則の一部改正
⑤居宅介護事業登録ヘルパー業務嘱託料に関する規程の一部改正
第2号議案 苦情解決第三者委員の選任

◇令和元年10月24日（第137回）

- 第1号議案 補正予算（令和元年10月期）
第2号議案 諸規程の改正
①安全活動委員会規程の一部改正

◇令和元年11月29日（第138回）

- 報告事項のみ
中長期計画の進捗状況
内部監査報告
令和元年台風15号及び19号に対する寄附金（義援金）の拠出
理事長の職務執行状況報告

◇令和2年1月30日（第139回）<書面での同意による理事会の決議>

- 第1号議案 施設長の任免

◇令和2年3月18日（第140回）

- 第1号議案 <1>補正予算（令和2年3月）
<2>純資産「その他の積立金」の積立て
第2号議案 令和2年度事業計画及び令和2年度收支予算
第3号議案 嘱託職員の就業条件に関する規程の制定
第4号議案 諸規程の一部改正
①定款施行細則の一部改正
②評議員選任・解任委員会細則の一部改正
③理事職務権限規程の一部改正

- ④職員就業規則の一部改正
- ⑤職員給与規程の一部改正
- ⑥パート職員等就業規則の一部改正
- ⑦雇用職員就業規則の一部改正
- ⑧育児休業及び介護休業規程の一部改正
- ⑨職員の福利厚生に関する規程の一部改正

第5号議案 施設長の任免

(3) 監事監査 1回 (5/27)

(4) 評議員選任・解任委員会 0回

(5) エリア会議 12回

南部	(4/25 2/26)	5/29 3/26)	6/26	7/30	8/28	9/30	10/30	11/27	12/25	1/29
中部	(5/9 2/26)	5/31 3/25)	6/28	7/29	8/28	9/30	10/29	11/25	12/25	1/31
北部	(4/25 2/28)	5/23 3/27)	6/27	7/26	8/28	9/26	10/30	11/29	12/26	1/30

(6) 施設長会議 4回

4/5 5/22 6/19 11/5

(7) 経営会議 4回

エリア会議前に理事が集まり、議案内容把握と確認のため、新たに実施。
12/23 1/22 2/18 3/18

(8) 苦情解決申し出 (別表1)

(9) 施設運営委員会

それぞれ各2回程度開催し、運営や利用者理解の広がり、施設の自主製品の販路拡大など貴重な助言を得た。

2. 行事の開催

①第55回「成人を祝う会」の開催 (仙台サンプラザホテル 令和2年1月11日(土))

参加者 新成人13名(男性9名、女性4名), 付添23名, 来賓・一般88名 計141名

※仙台市 健康福祉局長 船山明夫様 さとう音楽事務所 さとう宗幸様

②次回 第56回「成人を祝う会」予定:令和3年1月9日(土) 於:仙台サンプラザホテル

※新成人該当者(見込み) 法人事業所 利用者12名(男8名、女4名)

一般会員 2名(男1名、女1名) 合計14名

3. 部会

(1) 販売業務訓練等事業

授産製品の販売・消費者情報発信機能を担うと共に、在宅者にも積極的に訓練生としての受け入れを行った。販売実務の習得を通して職業意識を喚起し、視野を広げることで一般就労に繋がった。また、経験の拡大として短時間の受け入れも行った。

- ・店舗…エスパル仙台店「ゆめの森」, みやぎ生協セラビ幸町店「はあと」
- ・訓練修了者…4名
- ・支援スタッフ…コーディネーター1名, パート7名, ボランティア数62名
- ・販売額…ゆめの森 347万円, はあと205万円 合計552万円

(2) 給食部会

法人内給食に関する管理・運営、栄養士による献立作成、給食の提供、利用者それぞれの身体状況に合わせた調理方法により、やわらか食やソフト食など食べやすい形態にして提供を行った。

・栄養士による献立作成、衛生指導 (給食会議:毎月1回)

・給食担当者対象の調理研修会の計画、実施

講師:国際ホテル シェフパティシエ 土屋 貴幸氏

実施メニュー:4品(ヴァニラ風味パンナコッタにパイナップルのソース・ガトーショコラ・柔らかプリンにオレンジのジュレ・メープルフィナンシェ)

・食事に関するアンケート(食事の塩分), 給食だより36号の発行

(3) スポーツ・レクリエーション部会

- ①第18回スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催（令和元年9月20日）
法人設立39周年記念行事としてシェルコムせんだいで開催。日中活動支援の成人施設の利用者・保護者、施設職員、ボランティアが一堂に会し、身体を動かし交流を楽しんだ。ゾーンを『スポーツ』『のんびり』『室内』に分け、合わせて15ブースを設置した。今回、スポーツゾーンでは午前と午後で内容を変え、参加者がより楽しめる様に工夫した。
共催：公益財団法人仙台市スポーツ振興事業団 後援：仙台市 ボラ協力：仙台大学、仙台医療福祉専門学校、東北文化学園専門学校。
- ②スポ・レク企画行事（月1回土曜日開催）
・スポーツ系6回 ・創作系2回 ・鑑賞系1回 ・季節系1回 中止2回（大雨、感染予防）
会場：福祉プラザ プラザホール10回
※新型コロナウイルス感染予防により3月の事業を中止とした。次年度は、状況を踏まて実施することになる（③フットベースボールも同様）
- ③フットベースボール競技全体会（月1回日曜日開催）
大野田小学校グラウンド（4, 5, 6, 8, 10, 11月） 体育館（1, 2月）開催
中止3回（雨天、猛暑、感染予防）
- ④フットベースボール競技強化練習会
宮城教育大学附属支援学校グラウンド4回開催。
鶴巻小学校グラウンドナイター練習4回開催。
北海道・東北ブロック大会出場（6月23日）。岩手県、宮城県チームと対戦、敗退。
東北地区親善交流フットベースボール大会（9月29日 シェルコムせんだい）
仙台市手をつなぐ育成会2チーム、岩手県、宮城県、山の神（バスケット）チーム出場。
- ⑤宮城県・仙台市障害者スポーツ大会予選会強化練習会 FD競技
大野田小学校にて開催。6名の選手が参加する。

(4) 生活支援部会

テーマ「福祉のまちづくりの推進」

- ①暮らしの場検討委員会；利用者支援のあり方を追求し、質の向上に努めてきた。
ふきのとう・コスマス会議に合わせ検討委員会も同日開催し、グループホームにおける課題の解決と共に安定した運営の為に助言を行った。
- ②医療機関整備検討委員会；医療の面的整備に向けて、医療機関へのスムーズな受診の為、前年度に続き健康ファイルの作成に取り組んだ。利用者の健康管理の為、内部研修にて感染症対策及び服薬管理について研修会を開催した。
- ③命を支える食検討委員会；食に関する知識や情報の提供機関という認識の定着をテーマに、「もぐもぐ通信」を3回発行した。内部研修の為、管理栄養士に講師を依頼し、「肥満予防について」をテーマにグループホーム世話人等向けに研修会を開催した。
- ④豊かな余暇検討委員会；一般就労されている方を対象とした「おしゃべりサロン」を4回開催した。休日に仲間と一緒に過ごせる大切な時間となっている。
*全体会議年3回、委員長会議3回、各委員会年5~7回実施した。

(5) 人財育成部会

○育成会職員研修会

法人内研修として階層別研修及びBS担当者研修を実施した。

※階層別研修（全24回）

新規採用職員（4月1回）

「利用者接遇について」

1級職員（全9回/各3回）

「①なぜこの仕事を選んだか」「②福祉制度」「③意思決定支援」

2級職員（全9回/各3回）

「①2級職員の役割」「②コンプライアンス」「③意思決定支援」

副主任（全3回）

「①部下との関わり」「②コーチング」「③意思決定支援」

パート職員研修（全2回）

「①②理事長講話・虐待防止」

※BS担当者研修（全8回）

「①法人BS制度について」「②③フォローアップ研修」「④振り返り・まとめ」

4. その他

(1) 社会の啓発

- ①宮城県特別支援教育研究会への助成
- ②報道機関への情報提供活動
- ③法人ホームページの運用

(2) 関係団体との連絡活動

- ①仙台市手をつなぐ育成会・家族会との緊密な連携による活動展開
- ②仙台市知的障害者関係団体連絡協議会、宮城県知的障害者福祉協会、宮城県社会福祉法人
経営者協議会、認定特定非営利活動法人 災害福祉広域支援ネットワークサンダーバード
など関係団体の行う社会福祉諸活動との緊密な連携による活動展開

(3) 大会等参加活動

- ・ 第 54 回仙台市社会福祉大会共催 (仙台市民会館) 令和1年9月3日)

(4) 寄付金寄贈者（順不動・敬称略）〈物品寄付を含む〉

大野田はぎの苑保護者会、大野田町内会、西大野田町内会、
七十七愛の募金会、菅原健、一般社団法人仙台建設業協会、こてまりの会、相澤伸一、
伊藤光子、菊池正子、工房しらかば保護者会、畠山重光、門田延久、
工房けやき保護者会、大友久子、市川成勝、町田祐左、山崎教史、後藤仲男、榎原絢子、
斎藤博子、岡島宏文、小野寺孝次、佐藤俊夫、佐藤智子、土田栄、諸積恒夫、大和務、
渡部務、工房けやき保護者有志、こぶし保護者会、どちのき保護者会、
佐藤洋子、工房かやの実保護者会、いづみライオンズクラブ、
仙台古民具骨董市実行委員会

別表1

苦情解決申し出

※問い合わせ相談など、窓口や電話の初期応対により解決した案件を除く。

施設名	受付日	苦情の概要	苦情改善の概要	第三者委員	解決確認日	適正化委員会付議
家族支援等推進事業	平成31年4月15日	朝、7:00から利用予定だった利用者、保護者が玄関前に来ていたことに気付かず、2階で朝食の準備や他利用者の対応等をしていました。7:20頃に扉を叩く大きな音に気付いたが「もう新幹線に間に合わず、仕事にも行けなくなった！」と大変ご立腹され、利用せずに帰られてしまつた。	対応した職員から主任に報告を入れる。主任は即時その利用者宅へ向かい謝罪する。 「利用開始時間付近になつたら小まめに玄関を確認する」等、具体的な改善策を提示し、ご了承いただいた。 ※2階電話機(インターフォンと連動)が通話中の状態になつていたため、インターフォンも保護者からの電話もかかるない状況であった。	不参加	平成31年4月15日	なし
ホープすずかけ	令和元年5月16日	利用者のご家庭より、担当職員へ「5月19日のフライングディスク大会に申し込みましたが参加者名簿に本人の名前がない」と問い合わせがある。例年、ご本人から申込書を受け取り申し込みをすすかけから行つていただが受け取りの確認不足で申し込みできず、不参加となつてしまい毎年家族そろつて参加する恒例の行事であったのに」と落胆されていた。	発覚してすぐに大会の主催者に申し込みをお願いしたがエントリー期間は終了し申し込みできず本人ご家族に謝罪する。本人が楽しみにしていた時間の代替え案をご家族とも検討し大会当日に職員が本人の支援を行ひ了承していただいた。 今後においては書類の受け渡し(申し込み)から確認までのプロセスを明確にしていく。	不参加	令和元年5月16日	なし
工房しらかば	令和元年6月16日	6月11日公用車内で、てんかん発作が起きた際、職員の不適切な対処で保護者への信頼を損ねた件で、ご本人が入院中、病院の付き添いを職員がするのであれば、事故当日の詳細を聞きたいとの訴えがご本人の関係者より連絡が入る。その後も、法人の理事長がなぜ顔を出さないのか、なぜ発作直後身体を起こさなかつたのか、車を停車して救急車を呼ばなかつたのか、保護者からの訴えがある。	6月11日事故当日、状況を説明していくものの、改めて理事長を含め6月18日に報告する場を設けた。6月19日ご逝去をうけ、保護者のご要望で理事長からの文章を配布をした。保険会社、弁護士により事故発生時のご本人の状態と職員の対応について、医師への調査を実施した。法人としての再発防止策と今後の方針について、1月7日に保護者に説明し、その後ご了承をいただく。	不参加	令和2年2月8日	なし
仙台ふきのとう	令和元年6月21日	帰省した際、パジャマ用の下着を着用してきた。本当に毎日着替えているのか？と保護者より連絡が入る。	スタッフが電話対応した際に、洗濯は毎日行つていると話したがうまく伝わらず感情的になつてしまつた。そのことで更に不信感が増し、利用控えがあつた。管理者、サービス管理責任者が家庭訪問し、スタッフの対応が不適切であつたことお詫びし、改めてご要望をお伺いし利用再開している。	不参加	令和元年7月24日	なし

仙台ふきのとう	令和元年7月19日	グループホームスタッフの対応で、本人への声掛けがきつい、交換条件を出し言ふことを聞かせようとするなど不適切な支援がみられている。本人が帰省時にこれまでになく興奮し、訴えてきた。また、8/29にも本人より同様の訴えがあり、9/11には法人宛に保護者より要望書が届いている。	保護者からの訴えにより、スタッフに対し事実確認や支援に関する指導を行う。入居者本人からも聞き取りを行った。しばらくは落ち着いていたが、状況は良くならず、8月29日にご本人より更なる訴えがあった。何度もスタッフと話し合いを重ねるがなかなか理解が得られず、最終的に配置換えの提案をする。その結果、1名は退職し、1名は他事業所で現場研修を経て、別のホームに配置替えとなつた。このことは虐待案件にあたるとして、仙台市に報告書を提出している。ご本人、ご家族に対してもつらい思いをさせたことをお詫びする。虐待防止研修の実施し、再発防止に努める。	不参加	平成元年10月29日	なし
仙台ふきのとう	令和元年8月15日	8/12~16の間に帰省した際に、小遣い用の財布をお返ししたところ、現金が不足していると母より連絡があった。職員が受け渡しの際に中身を確認していないかったことから、どの時点でなくなっていたのか特定できない状況。	現金が紛失したことで、関わった人員やいつの時点でなくなったか調べたが、原因を特定するには至らなかつた。再発防止策について協議し、現金を取り扱う人を限定し、金庫に保管することや預り金を少額にすること、受け渡しの際に中身の確認をすることを取り決めた。しかし、その後ご家庭への連絡調整が遅れ、叱咤を受けた。 面談の際にお詫びし、書面にて取り扱いの説明をし、ご理解いただいた。	不参加	令和元年10月11日	なし
工房けやき	令和元年10月8日	保護者より、「昨日配布をお願いしたお土産が本人の荷物から取り出されておらず、以前お土産を各利用者へ配布して欲しいとお願いしていた物も未だに配布されていないがどうなっているのか。」と連絡帳及び朝の送迎対応職員に話があった。	報告を受け、主任より直ぐにお電話にて荷物の確認不足により不快に感じさせてしまったことをお詫び申し上げる。 その後送迎時にも重ねてお詫び申し上げ、荷物確認及び職員間での情報共有を改めて徹底していくことを伝え、了承を得た。	不参加	令和元年10月8日	なし
工房しらかば	令和元年10月15日	ドライバー職員の言動について職員として任せることができない、と母親と利用者から訴えがある。訴えた母親の友人からドライバー職員が私生活においての「車の運転が怖かった、知らない方に暴言を吐いていた」との情報が入り、非常に不安だ…とのこと。また、「以前から息子にも無視をする等不快な思いをさせており我慢ができない」とのことであった。	直ちに、施設長から当該ドライバー職員に事情を確認する。利用者に対し無視をしたこと等、利用者と職員の互いのとらえ方に異なる点があること、利用者保護者の言い分に偏った見方があること、また以前から2人の関係性が改善しない様子も見られていた為、施設長立ち合いのもと職員と利用者と話し合う場を設けてみては…と保護者及び利用者に提案する。結果話し合いの場を設けることはなく、今後気になることがあればすぐ職員に伝えるよう、利用者・保護者に提案をしてご理解をいただく。	不参加	令和元年10月31日	なし
大野田はぎの苑	令和2年1月8日	利用者同士の人間関係について、家族から連絡あり。「以前より関係性が悪い相手から嫌がらせを一方的に受けている。本人も非常に不安定になっている。具体的な改善策を講じてくれるまで休ませる」と話がある。	家族も高揚している状態であり、落ち着いて話ができる状態ではなかつた。後日、来所してもらい、施設長と副主任で話をうかがう。本人に苦痛な思いをさせてしまったことについてはお詫びをする。また書面で今後の支援方針を具体的に提示し、日中本人がクールダウンできる居場所の確保を提案したこと、納得いただいた。	不参加	令和2年1月16日	なし

仙台ふきのとう	令和2年2月21日	グループホームから帰省の際に、下着やネックシャツをきていないと苦情の連絡が入る。他にも口腔ケアや痔等のチェックが疎かだとご指摘を受けた。	調査した所、下着は来ていたが、ネックシャツを着ていないことが判明。至らない点については、管理者よりお詫びの連絡をし、今後の対応について見直しをするように職員に周知した。	不参加	令和2年2月21日	なし
工房しらかば	令和2年3月3日	保護者より「休日中利用者が不安定で街中で激しく暴れた、不安定な原因はしらかばでの作業が影響しているのではないか」、できれば面談をして確認をしたいとのことであった。面談では、作業内容が利用者のニーズに合っていない（たまご塗をしたいができない）のではないかとのこと。併せて、職員が不適切な発言をしているのではないかとの訴えであった。	施設長が両親と面談を行う。両親のお考えを確認し、現状の作業体制及び内容を説明する。併せて、不適切な言葉を発していると伝えられた発言内容等を確認する。施設長から現在できる範囲での改善方法をお伝えし、その後担当者と検討する。併せて不適切な発言については、担当職員2人に確認をするが、その場面での発言は利用者保護者のどちらかと異なっていたことを確認。翌日作業の提供方法について改善点を担当者よりお電話でご連絡し了解をいただく。	不参加	令和2年3月4日	なし

利用者状況

		利用定員	事業日数	延利用率	1日平均利用数	土曜登録数	送迎利用数	障害児状態区分	児童指導員等配置	児童指導員等加配体制	強度行動障害体制加算	福祉専門職員配置等
児童発達支援	平成30年度	3	288	143	0.5	2	223		あり	I 専門職員	なし	III
	平成31年度	3	286	166	0.6	4	256		あり	I II 専門職員	なし	III
放課後等デイサービス	平成30年度	7	288	2538	8.8	8	3,934	区分2の1	あり	I 専門職員	なし	III
	平成31年度	7	286	2128	7.5	9	3,062	区分1の1	あり	I II 専門職員	なし	III

状況内訳

			5歳未満	5歳	6歳	小学校1～2年	小学校3～4年	小学校5～6年	中学生	高校生	計	合計
児童発達支援	平成30年度	男	2	3	0	0	0	0	0	0	5	5
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	平成31年度	男	0	1	3	0	0	0	0	0	4	4
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放課後等デイサービス	平成30年度	男	0	0	0	8	9	7	0	0	24	31
		女	0	0	0	1	3	3	0	0	7	
	平成31年度	男	0	0	0	9	7	3	3	0	22	27
		女	0	0	0	1	1	3	0	0	5	

障害の状況

			知的障害			発達障害			身体障害	精神障害	重症心身障害	医療ケア	合計	
			重度	その他	自閉	広汎性	その他							
児童発達支援	平成30年度	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
		0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
放課後等デイサービス	平成30年度	0	7	14	2	0	0	7	0	0	0	1	31	
		0	7	15	0	0	0	4	0	0	1	0	27	

学校内訳

			宮教大附	小松島特支	鶴谷特支	光明特支	名取特支	利府特支	いづみ特支	特別支援学級	その他	合計
児童発達支援	平成30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
放課後等デイサービス	平成30年度	7	3	2	1	0	0	0	0	14	4	31
		5	4	1	1	0	0	0	0	14	2	27

職員状況

	正規職員(嘱託含)			非正規職員			正規職員退職理由					
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者						
平成30年度	6	1	2	3	1	1						
平成31年度	6	0	0	3	1	0						

配置職員取得資格状況(資格は重複記入・計は実員数となっている)

	支 援 職 員											看護師	送迎ドライバー	事務職員	管理責任者	児童発達支援	計	
	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	保育士と重複しないこと	児童指導員のみ	初任研修のみ	木レムヘルパー	木レムヘルパー	強度基礎研修のみ	強度実践研修のみ							
平成30年度	正	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	非	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼		
計													0	0	1	1	1	
平成31年度	正	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	専・兼	専・兼	専・兼	9
	非	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	専・兼	専・兼	専・兼	専・兼		
計													0	0	1	1	1	

【事業所名：おり～ぶ鉤取／事業名：放課後等デイサービス】

令和2年3月末日時点

利用者状況

		利用定員	事業日数	延利用率	1日平均利用数	土曜登録数	送迎利用数	障害児状態区分	児童指導員等配置	児童指導員等加配体制	強度行動障害体制加算	福祉専門職員配置
児童発達支援	平成30年度	0	0	0	0	0	0					
	平成31年度	0	0	0	0	0	0					
放課後等デイサービス	平成30年度	10	288	2719	9.44	17	2719	区分2の1	あり	I 専門職員	あり1名	I
	平成31年度	10	292	2879	9.86	15	2879	区分2の1	あり	I 専門職員	あり1名	I

状況内訳

		5歳未満	5歳	6歳	小学1~2年	小学3~4年	小学5~6年	中学生	高校生	計	合計
児童発達支援	平成30年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	
	平成31年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	
放課後等デイサービス	平成30年度	男	0	0	0	0	0	0	10	16	40
		女	0	0	0	0	0	7	7	14	
	平成31年度	男	0	0	0	0	0	0	6	14	20
		女	0	0	0	0	0	0	3	11	

障害の状況

		知的障害		発達障害			身体障害	精神障害	重症心身障害	医療ケア	合計
	重度	その他	自閉	広汎性	その他						
児童発達支援	平成30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	平成30年度	17	19	16	2	0	7	0	0	0	61
	平成31年度	14	20	11	1	0	4	0	0	0	50

学校内訳

		宮教大附小松島特支	鶴谷特支	光明特支	名取特支	利府特支	いずみ特支	特別支援学級	その他	合計
児童発達支援	平成30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等デイサービス	平成30年度	5	7	2	6	10	0	0	8	40
	平成31年度	2	8	1	7	9	0	1	3	34

職員状況

	正規職員(嘱託含)			非正規職員			正規職員退職理由					
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者						
平成30年度	6	1	1	4	2	0	転職					
平成31年度	6	1	1	3	2	2	転職(帰郷)					

配置職員取得資格状況(資格は重複記入・計は実員数となっている)

		支 援 職 員										看護師	送迎ドライバー	事務職員	管理職者	児童発達支援責任者	計
平成30年度	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	保育士と重複しないこと	(初任研修のみ)	木一ムヘルパ	(実務者研修のみ)	木一ムヘルパ	強度基礎研修のみ	強度実践研修のみ	実習	実習	社会福祉士	指導者講習	資格なし	
	正	0	2	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	専○兼○専○兼○専○兼○	10
平成31年度	非	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0		
	計	実員数(7名)(常勤換算数207h)										0	0	1	1	1	
平成31年度	正	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	専○兼○専○兼○専○兼○	9
	非	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0		
計		実員数(7名)(常勤換算数238h)										0	0	1	1	1	

【事業所名 : おり～ぶ上野山 ／事業名:放課後等デイサービス・児童発達支援】

令和2年3月末日時点

利用者状況

	利用定員	事業日数	延利用数	1日平均利用数	土曜登録数	送迎利用数	障害児状態区分	児童指導員等配置	児童指導員等加配体制	強度行動障害体制加算	福祉専門職員配置等
児童発達支援	平成30年度	10	0	0	0	0	I	I・専門職員	あり	なし	II
	平成31年度	10	0	0	0	0	I	I・専門職員	あり	なし	III
放課後等 デイサービス	平成30年度	10	292	2727	9.3	5	4842	区分2の1	I・専門職員	あり	なし
	平成31年度	10	291	2542	8.7	6	4485	区分2の1	I・専門職員	あり	なし

状況内訳

		5歳未満	5歳	6歳	小学校1～2年	小学校3～4年	小学校5～6年	中学生	高校生	計	合計
児童発達支援	平成30年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成31年度	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等 デイサービス	平成30年度	男	0	0	0	5	6	7	0	0	18
		女	0	0	0	4	4	5	0	0	13
	平成31年度	男	0	0	0	4	6	8	0	0	18
		女	0	0	0	2	5	6	0	0	13

障害の状況

	知的障害		発達障害			身体障害	精神障害	重症心身障害	医療ケア	合計
	重度	その他	自閉	広汎性	その他					
児童発達支援	平成30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等 デイサービス	平成30年度	10	16	1	0	1	3	0	0	31
	平成31年度	11	14	1	0	0	5	0	0	31

学校内訳

	宮教大附	小松島特支	鶴谷特支	光明特支	名取特支	利府特支	いずみ特支	特別支援学級	その他	合計
児童発達支援	平成30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成31年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放課後等 デイサービス	平成30年度	2	1	1	2	2	0	0	22	1
	平成31年度	2	1	1	1	3	0	0	21	2

職員状況

	正規職員(嘱託含)			非正規職員			正規職員退職理由					
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者						
平成30年度	5	1	0	3	0	0	・					
平成31年度	6	1	0	3	0	0	・					

配置職員取得資格状況(資格は重複記入・計は実員数となっている)

支援職員												看護師	送迎ドライバー	事務職員	管理者	児童発達支援理責任者	計	
介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	保育士と重複しないこと	児童指導員	木一ムヘルのみパ	木一ムヘルパ	木一ムヘルパ	强度（基礎研修のみ）	强度（実践研修のみ）	强度（実践研修のみ）	実習（実践研修）	社会福祉士講習	資格なし				
平成30年度	正	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	專・兼	專・兼	專・兼
	非	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	專・兼	專・兼	専・兼
	計	実員数 (6名) (常勤換算数 188 h)												0	0	1	1	1
平成31年度	正	0	1	0	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	專・兼	專・兼	専・兼
	非	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	専・兼	専・兼	専・兼
	計	実員数 (8名) (常勤換算数 268 h)												0	0	1	1	1

【事業所名：サポートはぎ】

1. 短期入所事業利用状況／泊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度	43	63	67	92	75	64	63	53	85	58	60	46	769	64.1
平成31年度	47	47	41	36	48	70	62	57	71	67	59	73	678	56.5

2. 短期入所事業利用状況／内訳

	定員	法人利用者延数	法人外利用者延数	学齢利用者延数	就学前利用者延数	合計	日平均
平成30年度	3	833	95	68	0	996	2.7
平成31年度	3	539	350	76	0	965	2.6

3. 障害者家族支援等推進事業利用状況／時間数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度	日中	208	316	256	378	211	217	234	211	281	175	167	202	2856	238.0
	送迎	26	74	64	66	45	43	62	48	50	48	60	52	638	53.2
	宿泊	270	500	570	590	410	290	420	400	400	310	350	330	4840	403.3
	合計	504	890	890	1034	666	550	716	659	731	533	577	584	8334	694.5
平成31年度	日中	166	261	232	267	228	230	222	342	186	190	133	243	2700	225.0
	送迎	37	48	53	64	33	53	77	68	41	25	35	45	579	48.3
	宿泊	220	340	360	310	310	440	480	480	350	390	330	460	4470	372.5
	合計	423	649	645	641	571	723	779	890	577	605	498	748	7749	645.8

*送迎は片道1回を1時間としてカウント。宿泊は1泊を10時間としてカウント(仙台市への事業実績報告のカウント方式で算定)

4. 障害者家族支援等推進事業／内訳

		定員	法人利用者延数	法人外利用者延数	学齢利用者延数	就学前利用者延数	合計	日平均
平成30年度	宿泊	3	345	100	39	0	484	1.3
	日中	6	574	216	84	4	878	2.4
平成31年度	宿泊	3	353	78	16	0	447	1.2
	日中	6	653	200	46	4	903	2.5

5. 障害児療育支援事業利用状況

	延べ利用人数			備考			
平成30年度	13						
平成31年度	12						

6. 職員状況

	正規職員(嘱託含)			非正規職員			正規職員退職理由
	総数	新規	退職者	総数	新規	退職者	
平成30年度	14	0	1	1	0	0	・転職のため。
平成31年度	16	1	1	3	2	2	・結婚(転居)の為。・正職員登用の為。

7. 配置職員取得資格状況(資格は重複記入・計は実員数となっている)

		支援職員										児童発達支援理責任者	計						
		介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	保育士と重複しないこと	児童指導員	木一ムヘルパ（初任研修のみ）	木一ムヘルパ（実務者研修）	強度行動障害支（基礎研修のみ）	強度行動障害支（実践研修）	実習指導者講習	資格なし	看護師	送迎ドライバー	事務職員	管理者	児童発達支援理責任者管	計
平成30年度	正	3	5		2			3		3	3	3				専・兼	専・兼	専・兼	17
	非												1	専・兼	専・兼	専・兼			
	計	(実員数 17人) (常勤換算数 16.3h)																	
平成31年度	正	4	5		3			4		5	5	3	1			専・兼	専・兼	専・兼	19
	非												3	専・兼	専・兼	専・兼			
	計	(実員数 19人) (常勤換算数 17.3h)																	

診療所

	法人利用者延べ数	法人外利用者延べ数	学齢児延べ利用数	就学前児利用延べ数	合計
平成30年度	2	17	0	74	93
平成31年度	1	18	2	46	67

相談支援事業(指定一般・指定特定)

	法人利用者延べ数	新規・更新	モニタリング	合計
障害者(一般)	平成30年度	0	0	0
	平成31年度	0	0	0
障害者(特定)	平成30年度	290	370	660
	平成31年度	393	1128	1521

* 指定(一般)とは地域移行・地域定着を指す

* 特定(計画相談)は児者合算数となっている

○委託相談事業(延べ件数)

		身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他	合計
平成30年度	障害者	8	0	190	38	32	0	1	1	270
	障害児	9	8	38	1	19	1	0	7	83
	計	17	8	228	39	51	1	1	8	353
平成31年度	障害者	16	0	239	102	45	1	0	4	407
	障害児	10	16	62	1	39	0	3	2	133
	計	26	16	301	103	84	1	3	6	540

対応手段(延べ件数)

		訪問	来所	同行	電話	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
委託相談	平成30年度	200	46	124	372	56	61	639	0	1498
	平成31年度	206	91	190	428	16	91	815	11	1848

令和2年3月末日時点

【事業所名：ヘルパーステーションコスモス】

1. 利用実績

		居宅介護		通院介助等		行動援護	同行援護	重度訪問介護	移動支援
		身体介護	家事援助	身体介護あり	身体介護なし				
延べ利用者数	平成30年度	11,910	153	191	24	133	41	0.0	1,358.0
	平成31年度	8,172	394	389	41	100	35	0.0	1,394.0
延べ利用時間	平成30年度	11,765	436.5	597	54.5	158	96	0.0	4,731.5
	平成31年度	12,734	484.5	855.5	51.5	128.5	128	0.0	4,654.5

2. 状況内訳

		障害支援区分								年齢区分(才)								
		非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70以上	計
平成30年度	男	0	0	1	11	15	13	16	56	4	13	19	15	4	1	0	0	56
	女	1	0	2	4	11	6	9	33	3	4	6	12	3	2	2	1	33
	計	1	0	3	15	26	19	25	89	7	17	25	27	7	3	2	1	89
平成31年度	男	0	0	1	11	17	14	18	61	4	14	20	15	7	1	0	0	61
	女	1	0	2	5	11	7	10	36	3	4	6	15	3	2	2	1	36
	計	1	0	3	16	28	21	28	97	7	18	26	30	10	3	2	1	97

3. 障害の状況

		療育手帳		精神手帳	身障手帳									医療ケア					
		A	B		1	2	3	4	5	6	7	身体 害	車椅子使用	聴覚障害	視覚障害	内部疾患	インスリン	人工透析	人工呼吸器
平成30年度	男	34	23	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	0
	女	28	4	1	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0
	計	62	27	1	1	0	2	0	0	0	0	1	2	1	3	0	1	0	0
平成31年度	男	39	24	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	0
	女	29	4	2	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0
	計	68	28	2	1	0	2	0	0	0	0	1	2	1	3	0	1	0	0

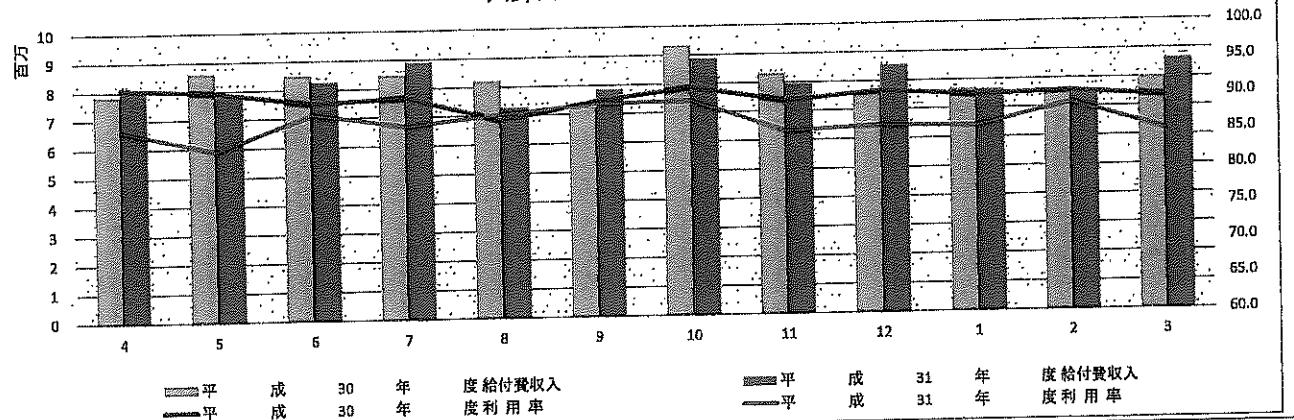
4. 職員状況

		正規職員(嘱託含)			非正規職員			正規職員退職理由					
		総数	新規	退職者	総数	新規	退職者						
平成30年度		15	2	1	13	4	0	・自己都合(県外への移住)					
平成31年度		10	1	1	4	0	0	・自己都合(他業種への転職)					

5. 配置職員取得資格状況(資格は重複記入・計は実員数となっている)

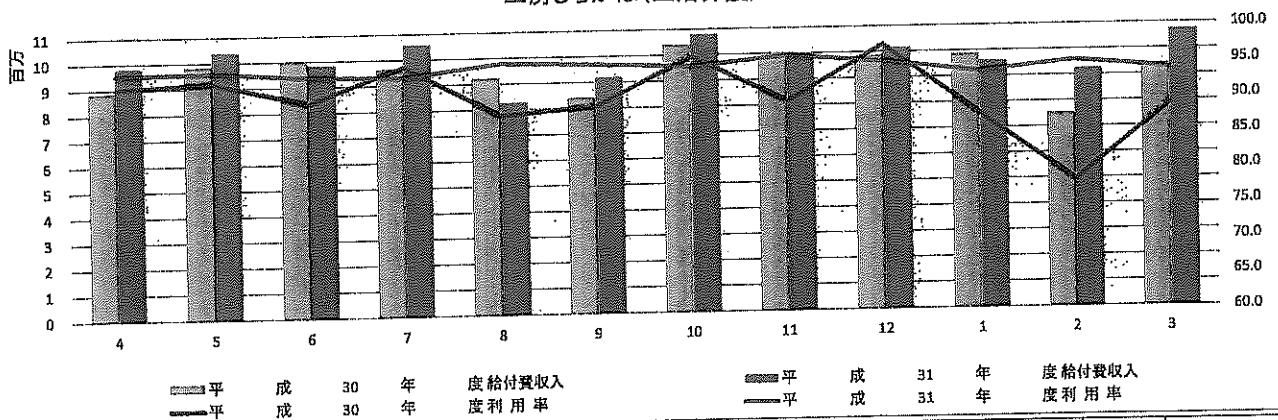
		支援職員										事務職員	管理者	サービス提供責任者	計
		介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	(初任研修のみ)ヘルパー	(実務者研修のみ)ヘルパー	強度行動障害支援者	强度行動障害支援者	実習社会福祉士講習	資格なし				
平成30年度	正	5	2	0	1	6	3	1	0	0	0	兼1	専1	専2	28
	非	3	0	0	1	8	1	0	0	0	0	0			
	計	実員数(25名)(常勤換算数186h)										1	1	2	
平成31年度	正	4	1	0	1	5	2	2	1	0	0	兼1	専1	専2	16
	非	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0			
	計	実員数(13名)(常勤換算数90.4h)										1	1	2	

大野田はぎの苑(生活介護)



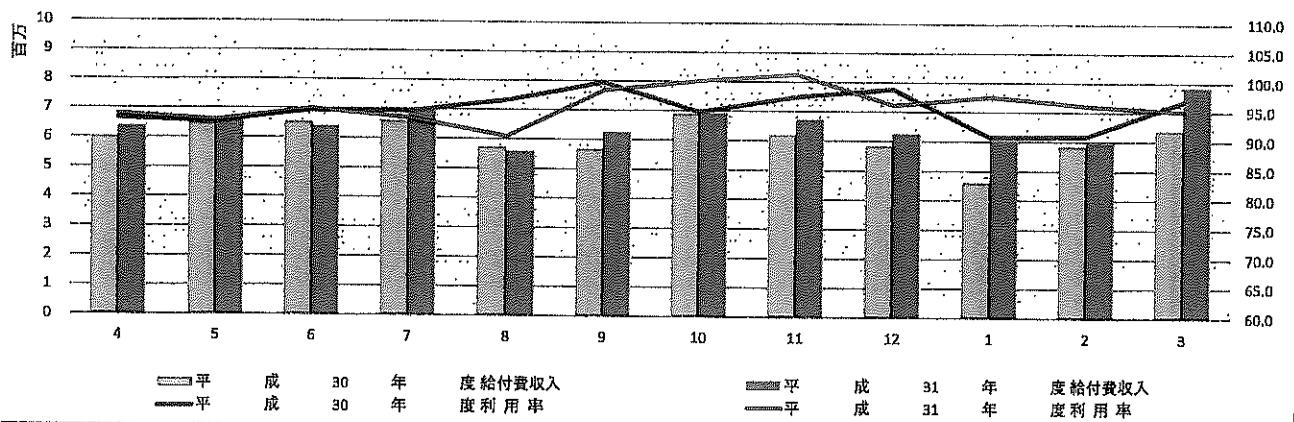
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	19	21	21	21	21	18	23	21	19	19	18	20	242
	利用率	92.3	91.7	90.0	90.7	87.4	88.8	91.5	89.5	90.7	89.9	90.3	89.6	90.3
	給付費収入	7,836,501	8,608,683	8,502,288	8,468,282	8,215,173	7,224,484	9,321,547	8,317,143	7,628,883	7,681,885	7,823,887	8,015,154	97,443,721
平成31年度	事業日数	20	20	20	22	18	18	21	20	21	19	18	21	239
	利用率	88.6	83.6	88.5	86.7	88.2	89.4	89.7	85.3	86.9	85.6	88.7	84.9	86.9
	給付費収入	8,124,008	7,800,258	8,250,605	6,898,184	7,284,723	7,843,561	8,885,258	7,828,286	8,655,428	7,652,359	7,507,818	8,656,294	97,386,792

工房しらかば(生活介護)



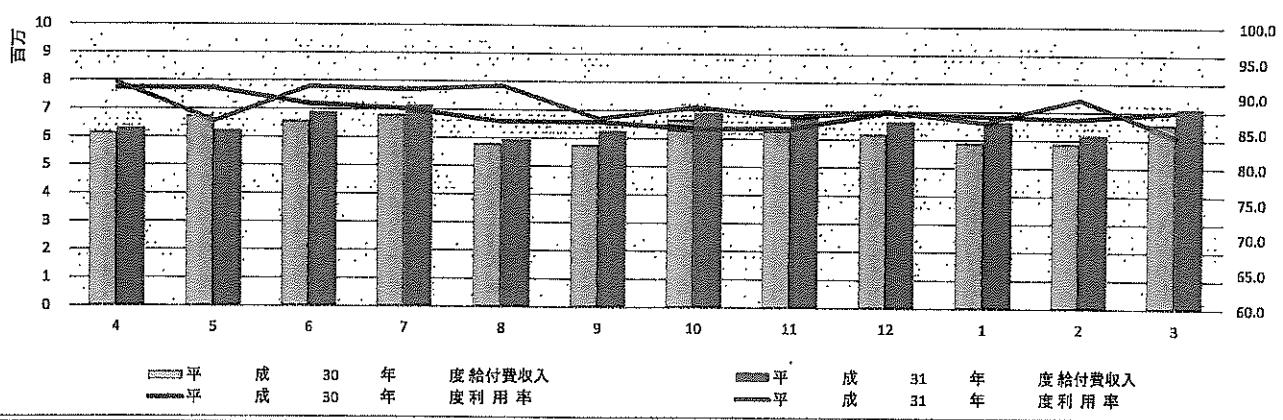
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	19	21	22	21	20	20	21	21	19	20	19	21	244
	利用率	92.8	93.4	90.4	95.4	88.3	89.4	90.2	89.7	97.5	87.5	78.0	88.8	90.6
	給付費収入	8,857,587	9,849,204	8,980,620	9,646,590	8,210,084	8,392,514	10,387,385	10,031,777	9,855,148	8,859,700	7,608,830	9,407,824	112,983,351
平成31年度	事業日数	20	21	20	22	17	19	22	20	20	19	18	21	239
	利用率	94.7	94.9	94.1	93.9	95.6	95.3	94.8	96.1	95.1	93.5	94.9	93.8	94.7
	給付費収入	9,619,814	10,382,471	9,837,770	10,579,895	8,265,423	9,189,528	10,802,633	9,888,681	10,180,435	9,592,289	9,243,837	10,744,380	118,615,059

こぶし(生活介護)



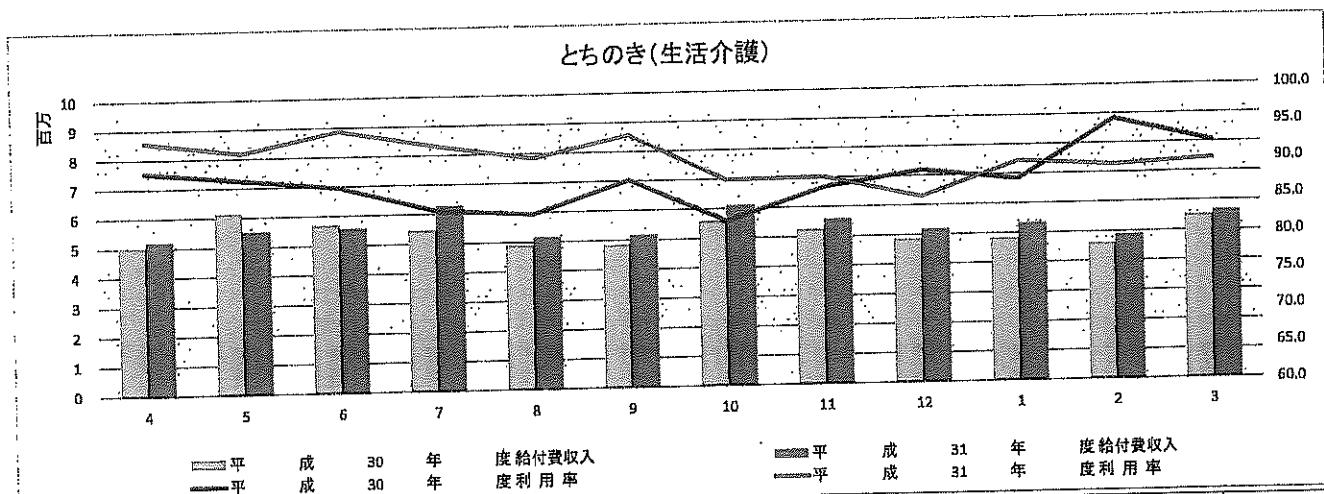
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	19	21	21	21	19	18	23	21	19	17	20	21	240
	利用率	93.3	92.7	94.7	94.6	96.6	99.7	94.8	97.4	98.8	90.7	90.9	96.8	95.1
	給付費収入	6,010,764	6,627,998	6,543,753	6,594,874	6,730,478	6,876,963	6,899,391	6,199,890	5,837,989	4,614,145	5,852,809	6,379,401	72,877,493
平成31年度	事業日数	20	21	20	22	18	20	21	20	20	19	19	22	242
	利用率	94.1	93.0	95.0	93.6	90.5	98.4	100.1	101.3	96.1	97.6	96.1	95.1	95.9
	給付費収入	6,376,962	6,840,605	6,395,141	6,969,058	5,575,141	6,241,743	6,922,078	6,709,357	6,242,816	6,048,818	5,949,433	7,838,548	77,800,298

工房けやき(生活介護)



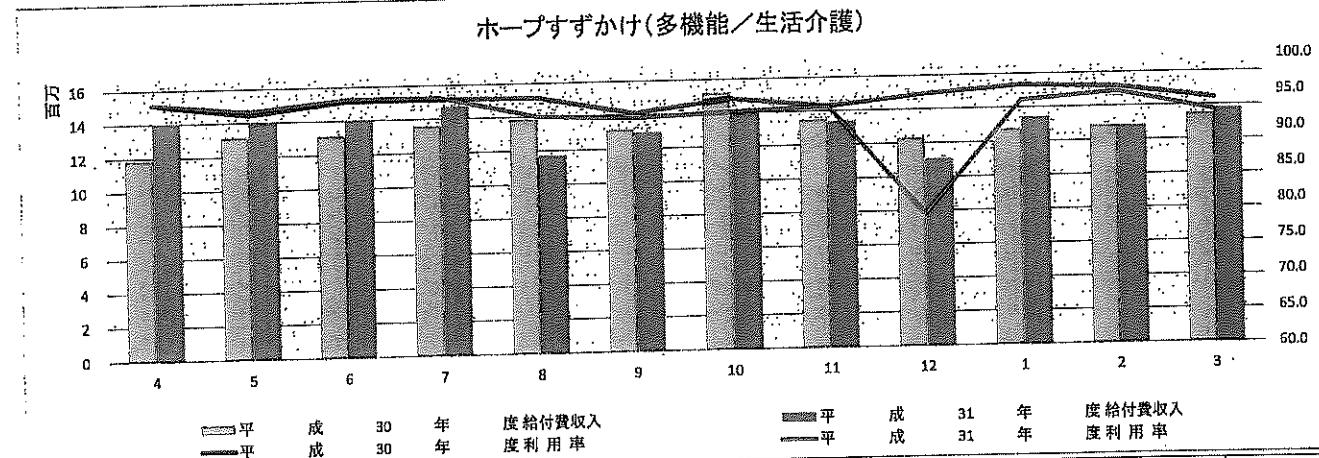
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	19	21	21	22	19	19	22	21	20	19	19	21	243
	利用率	90.9	90.9	88.7	88.1	86.3	86.3	85.4	85.5	87.8	87.3	87.0	88.0	87.7
	給付費収入	6,175,326	6,781,182	6,698,516	6,817,528	5,808,892	6,788,858	6,892,020	6,434,678	6,213,487	5,917,883	6,895,791	6,588,818	75,686,879
平成31年度	事業日数	19	20	21	22	18	20	21	21	20	20	18	22	242
	利用率	91.7	86.3	91.2	90.8	91.4	86.8	88.5	87.2	88.0	86.5	89.8	84.5	88.6
	給付費収入	6,302,386	6,240,306	6,882,570	7,136,375	5,928,540	6,262,352	6,908,228	6,832,457	6,632,038	6,635,246	6,180,279	7,131,345	79,073,102

とちのき(生活介護)



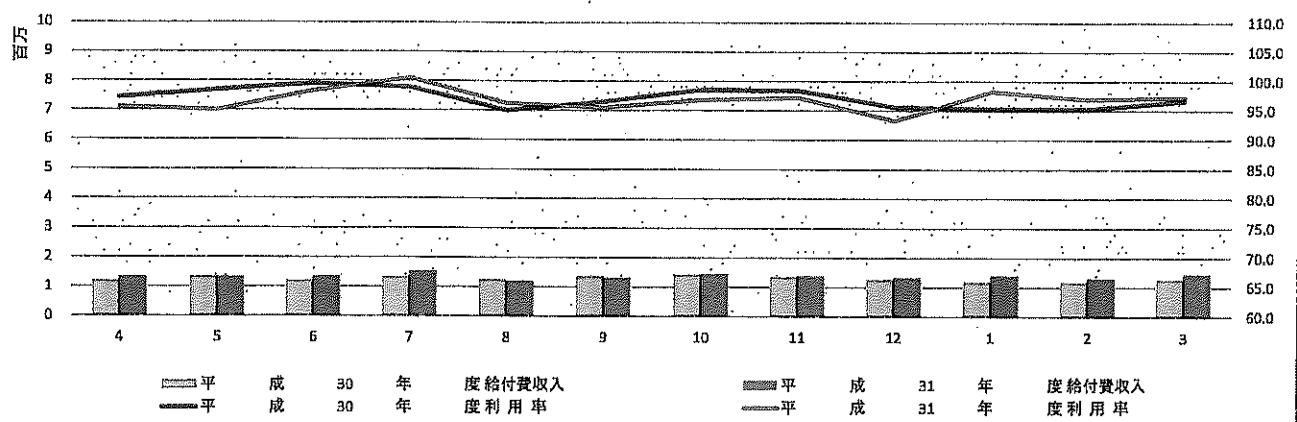
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	19	21	21	21	19	18	22	21	19	19	18	20	238
	利用率	80.2	89.0	87.8	84.5	83.8	88.2	82.4	86.7	88.8	87.4	95.4	92.2	88.0
	給付費収入	5,030,759	8,148,866	5,687,983	5,472,447	4,897,076	4,855,898	5,599,001	5,257,133	4,886,820	4,827,070	4,613,921	5,521,745	62,794,519
平成31年度	事業日数	19	20	20	23	19	19	23	21	20	20	18	21	243
	利用率	94.3	92.7	95.5	93.3	91.4	94.3	87.8	88.1	85.2	89.8	89.1	89.8	91.0
	給付費収入	5,220,859	5,526,487	5,689,419	6,285,008	5,172,772	5,179,258	6,122,416	5,595,000	5,194,725	5,338,133	4,893,864	5,876,303	65,771,042

ホープすずかけ(多機能／生活介護)



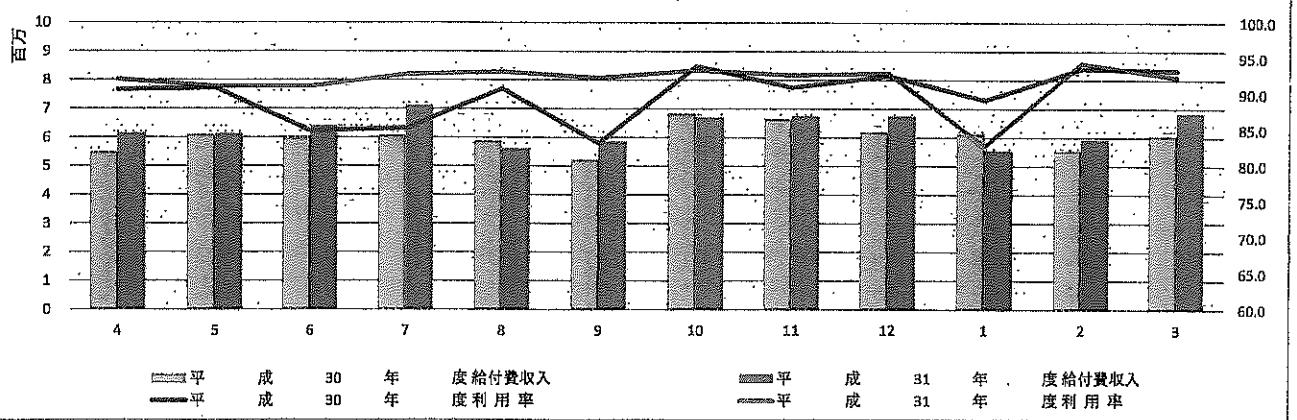
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	19	21	22	21	20	18	22	21	19	19	19	20	241
	利用率	95.6	94.0	95.6	95.7	95.6	93.2	94.9	93.8	95.1	96.1	95.7	94.0	94.9
	給付費収入	11,069,836	13,144,619	13,120,259	13,819,739	13,874,279	13,156,532	15,186,339	13,490,757	12,303,836	12,730,724	12,874,127	13,519,386	158,898,232
平成31年度	事業日数	20	20	20	22	18	20	21	20	20	20	19	21	241
	利用率	95.6	94.5	95.9	95.9	93.0	92.6	93.1	93.6	78.5	94.0	95.0	92.3	92.8
	給付費収入	14,024,870	13,862,258	14,052,031	14,708,893	11,687,503	12,941,144	13,080,311	13,373,787	11,068,051	13,413,224	12,847,766	13,800,981	159,840,618

ホープすずかけ(就労継続B)



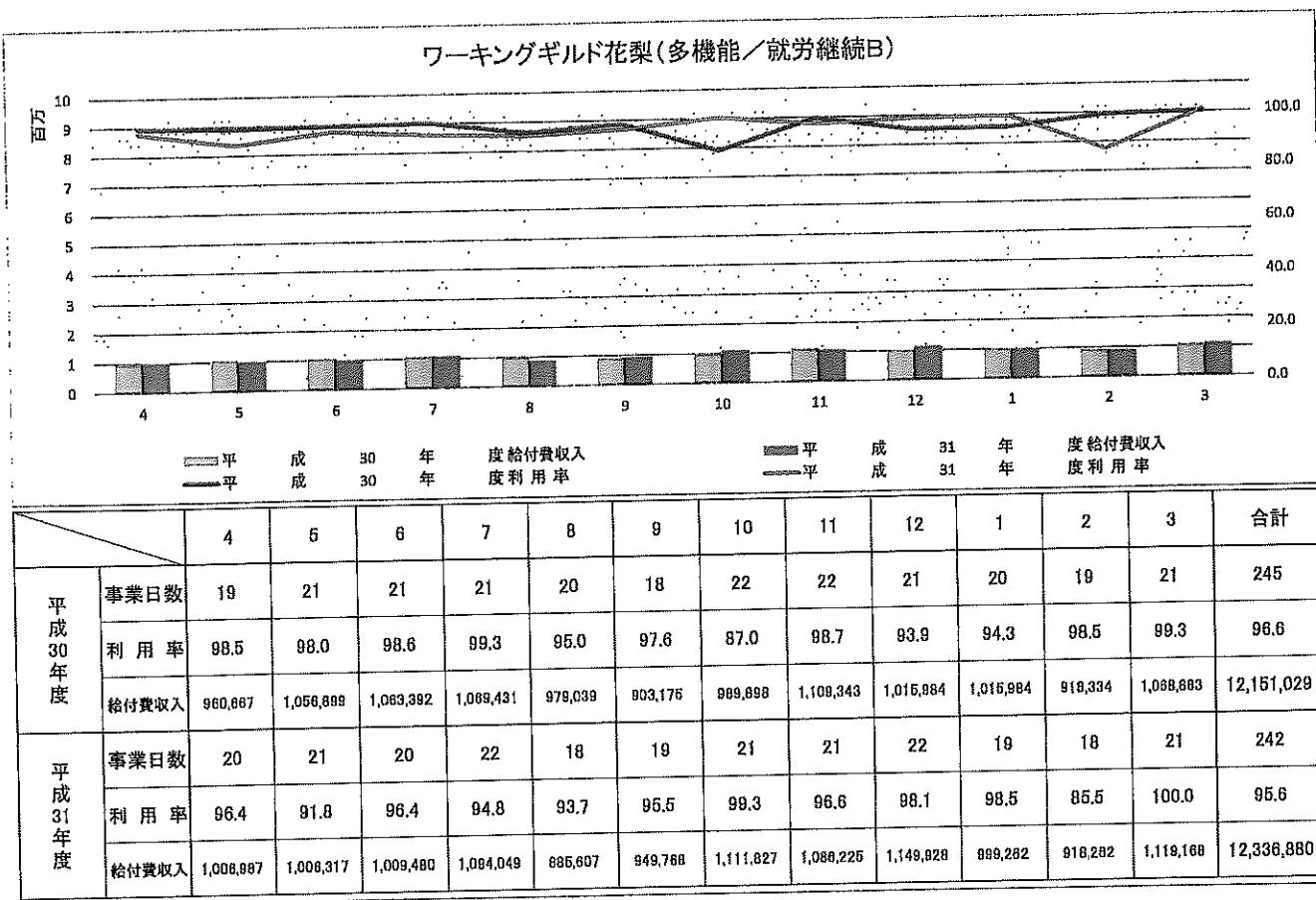
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	19	21	22	21	20	18	22	21	19	19	19	20	241
	利用率	97.1	98.4	99.5	98.9	95.0	96.5	98.5	98.4	95.6	95.3	95.3	96.7	97.1
	給付費収入	1,204,598	1,341,704	1,213,044	1,342,335	1,254,690	1,359,878	1,426,822	1,358,014	1,264,808	1,192,343	1,186,046	1,277,224	15,419,401
平成31年度	事業日数	20	20	20	22	18	20	21	20	20	19	19	21	241
	利用率	96.5	95.0	98.3	100.5	96.2	95.5	96.8	97.2	93.3	98.3	97.0	97.3	96.7
	給付費収入	1,338,281	1,330,113	1,360,033	1,541,834	1,213,051	1,328,789	1,452,352	1,388,409	1,332,501	1,406,784	1,316,773	1,458,980	16,473,880

ワーキングギルド花梨(多機能／生活介護)

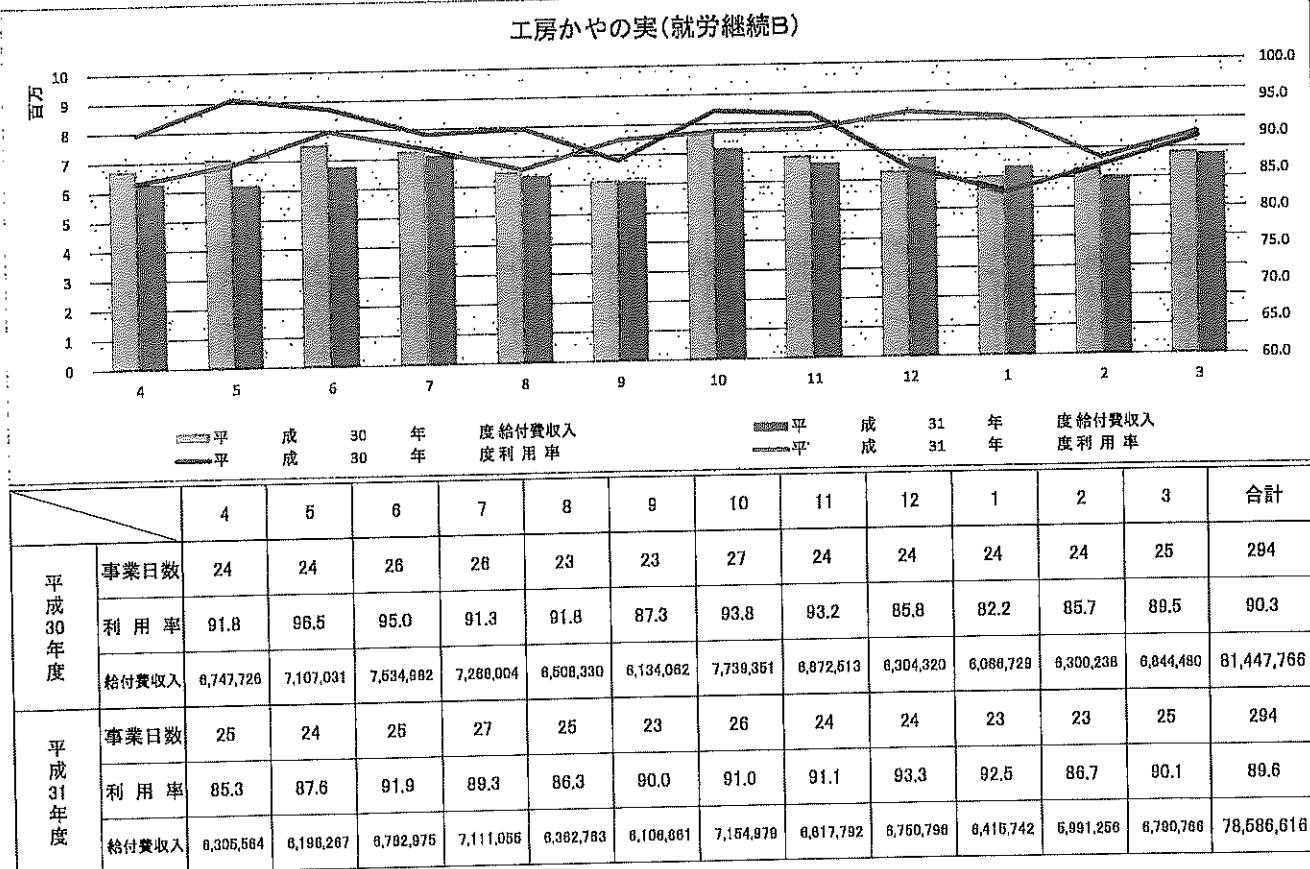


		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	19	21	22	22	20	19	22	22	20	20	19	20	246
	利用率	90.6	90.9	84.9	85.3	90.8	83.2	94.0	91.0	92.6	89.2	93.6	93.3	90.0
	給付費収入	6,492,410	6,110,554	5,980,440	6,083,137	5,890,827	5,220,812	6,648,937	8,859,087	6,208,052	6,137,702	5,554,284	6,072,189	72,274,430
平成31年度	事業日数	20	20	21	23	18	19	21	21	21	19	18	21	242
	利用率	82.1	91.1	91.1	92.8	93.2	92.3	93.4	92.7	93.0	82.8	94.4	92.4	91.8
	給付費収入	6,137,589	6,115,907	6,403,935	7,108,728	6,610,836	6,660,160	6,087,821	6,739,930	6,752,143	6,638,610	6,926,815	6,877,771	76,769,815

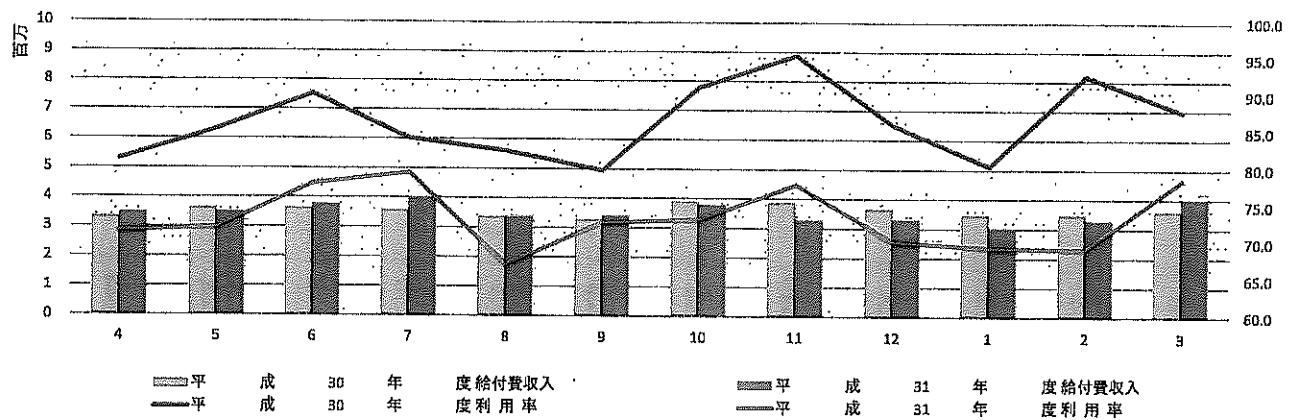
ワーキングギルド花梨(多機能／就労継続B)



工房かやの実(就労継続B)

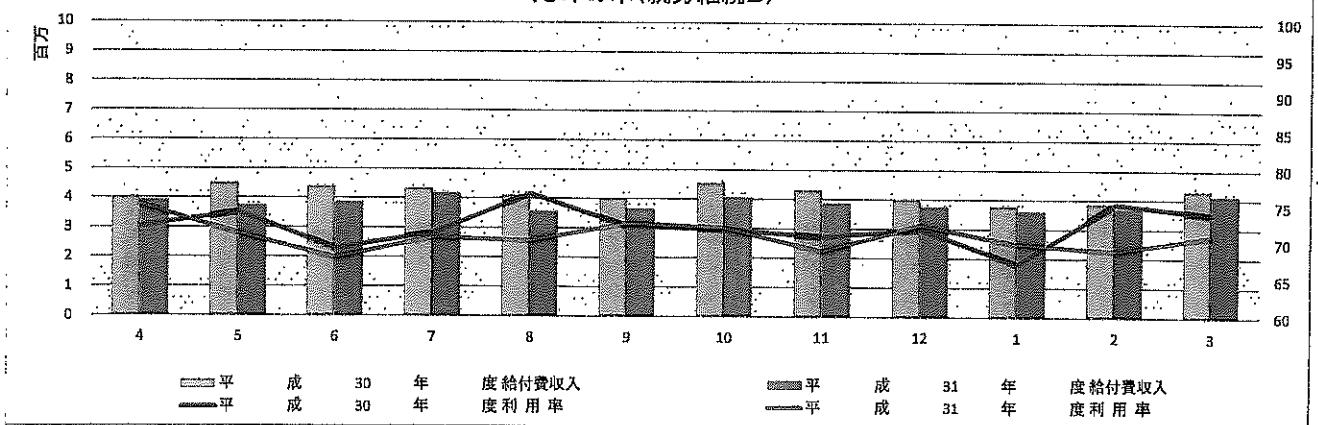


ワークスもくれん(就労継続B)



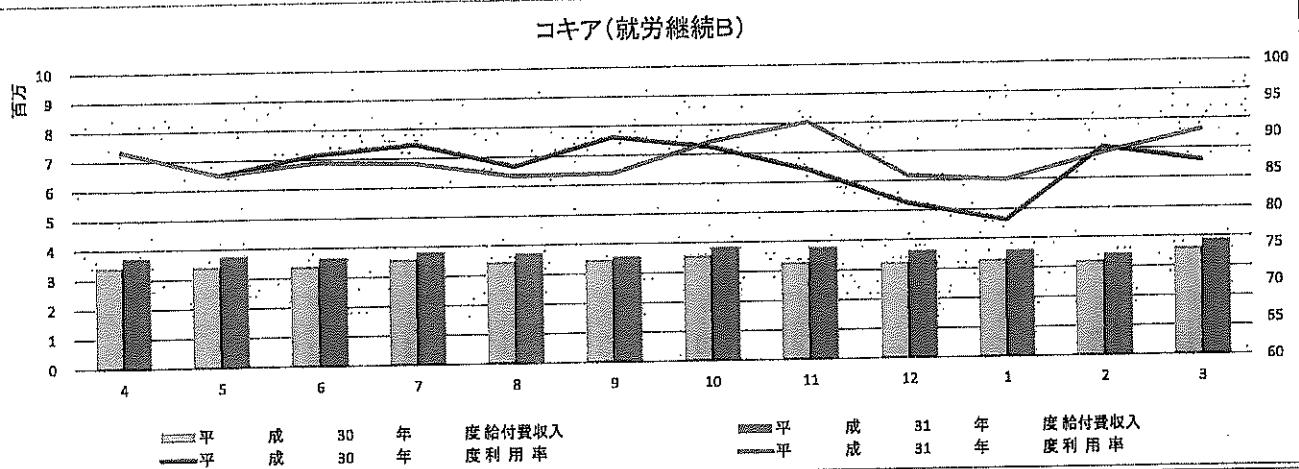
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	22	23	22	23	22	22	23	22	23	23	20	22	267
	利用率	81.2	85.3	90.1	84.1	82.4	79.8	91.1	95.5	86.0	80.5	92.8	87.9	86.4
	給付費収入	3,330,133	3,651,962	3,651,865	3,582,752	3,373,836	3,277,068	3,800,278	3,888,726	3,881,874	3,467,961	3,477,218	3,608,597	42,921,250
平成31年度	事業日数	26	26	26	27	27	25	27	25	28	26	25	27	315
	利用率	71.4	71.9	77.9	79.4	67.0	72.7	73.1	77.9	70.2	69.4	69.2	78.6	73.2
	給付費収入	3,493,408	3,510,883	3,783,885	4,008,952	3,375,844	3,408,238	3,788,133	3,278,057	3,298,840	3,028,911	3,280,867	4,035,006	42,300,844

くるみの木(就労継続B)



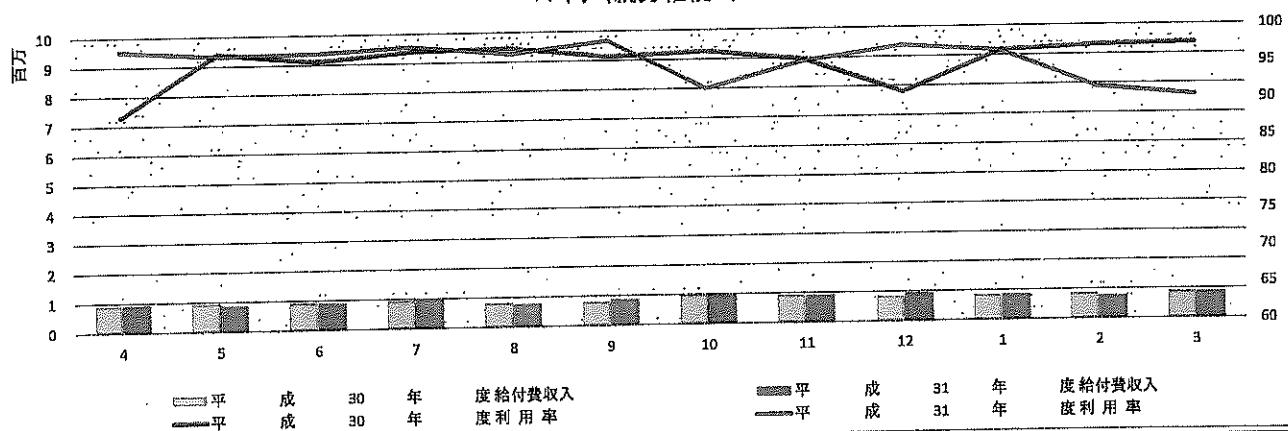
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	23	25	26	25	22	23	26	25	23	23	21	24	286
	利用率	72.2	74.1	69.2	71.3	76.7	72.3	71.9	70.9	71.9	67.2	75.4	74	72.3
	給付費収入	4,045,254	4,502,571	4,378,638	4,342,483	4,104,834	4,032,321	4,550,702	4,318,239	4,007,795	3,788,485	3,876,655	4,309,598	50,253,255
平成31年度	事業日数	23	23	25	26	23	23	25	25	23	22	23	25	286
	利用率	75.1	71.2	67.9	70.7	70.3	72.7	72.1	68.9	72.5	69.9	69.0	71.0	70.9
	給付費収入	3,923,103	3,732,715	3,860,714	4,173,727	3,559,347	3,671,195	4,060,786	3,880,178	3,754,582	3,807,702	3,704,083	4,142,173	46,070,305

コキア(就労継続B)



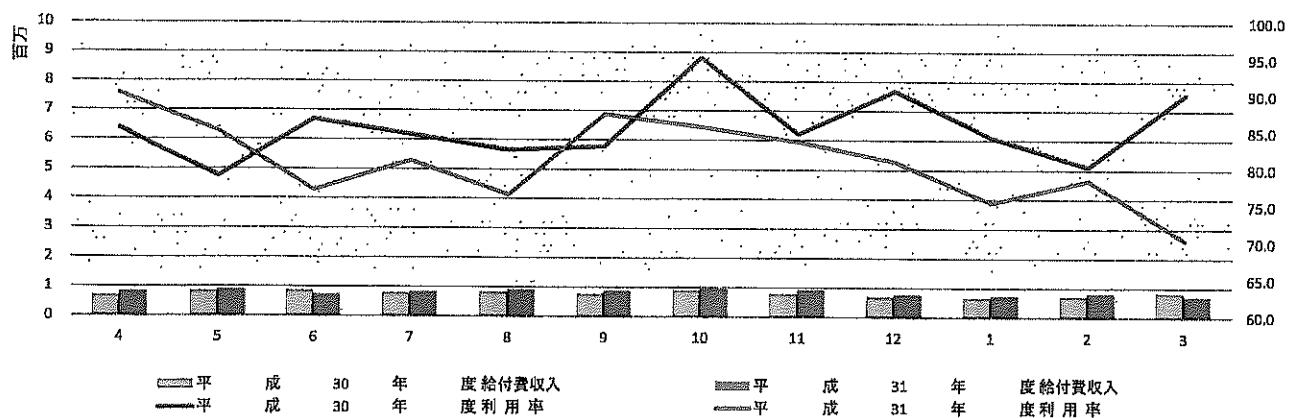
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
	利用率	89.3	86	88.7	89.9	86.7	80.5	89	86.7	81	78.6	88.3	86.4	86.7
	給付費収入	3,419,427	3,420,846	3,381,924	3,582,768	3,450,106	3,465,958	3,582,814	3,277,480	3,242,241	3,293,848	3,211,633	3,820,275	40,928,320
平成31年度	事業日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	21	23	270
	利用率	89.3	86.0	87.6	87.3	85.4	85.6	89.7	92.2	84.7	84.0	87.5	90.5	87.5
	給付費収入	3,737,995	3,768,725	3,669,868	3,815,783	3,736,205	3,575,944	3,842,406	3,791,458	3,636,378	3,615,315	3,436,309	3,889,132	44,515,318

コキア(就労継続A)



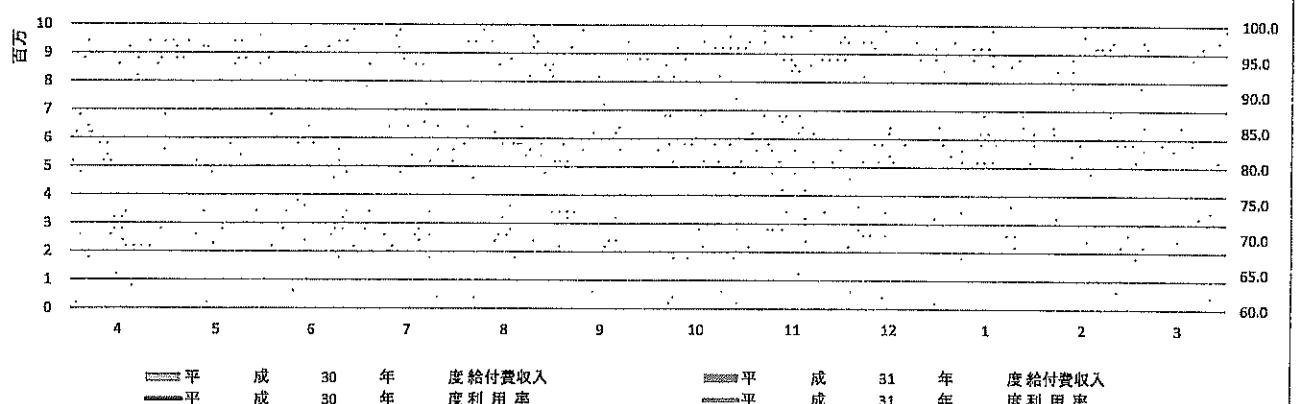
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	22	21	21	21	18	18	22	21	20	19	19	20	242
	利用率	89.2	97.6	96.4	97.6	97.9	96.5	97.1	95.8	91.2	96.7	97.3	97.5	95.9
	給付費収入	913,711	948,638	942,816	954,459	820,568	808,825	996,156	936,996	849,673	855,495	861,316	907,889	10,795,642
平成31年度	事業日数	20	19	20	22	17	19	22	20	20	19	18	21	237
	利用率	98.1	97.3	97.5	98.2	97.1	98.7	92.0	95.8	97.5	96.7	91.6	90.4	95.9
	給付費収入	927,360	868,320	921,456	1,021,808	779,727	886,032	966,878	912,211	952,000	876,392	787,002	906,269	10,804,556

太白障害者福祉センター(生活介護)



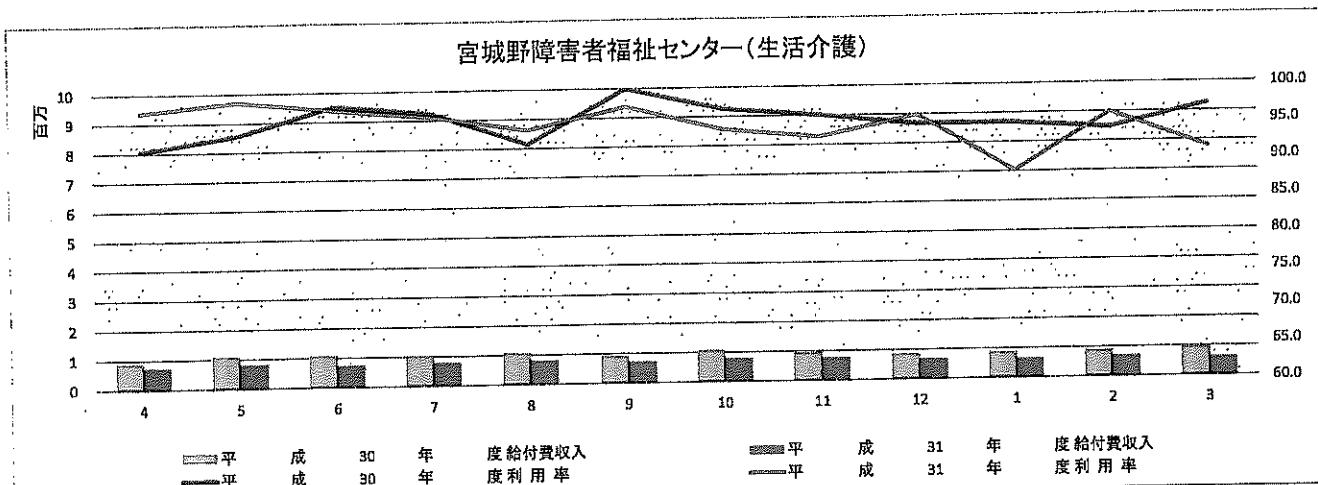
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	20	23	22	21	23	21	22	21	19	19	20	21	252
	利用率	85.5	79.1	86.8	84.7	82.6	83.1	95.3	84.9	90.8	84.4	80.5	90.2	85.7
	給付費収入	695,997	851,391	860,397	787,817	821,578	760,114	894,273	797,705	690,203	861,050	716,052	828,825	9,379,802
平成31年度	事業日数	21	23	21	22	23	20	22	22	19	19	20	20	252
	利用率	90.3	85.1	77.2	81.2	76.6	87.5	85.8	83.8	81.1	75.6	78.6	70.5	81.1
	給付費収入	850,541	805,878	749,018	837,588	808,878	882,388	983,481	938,184	791,308	738,825	824,008	718,716	10,127,469

太白障害者福祉センター(生活訓練)



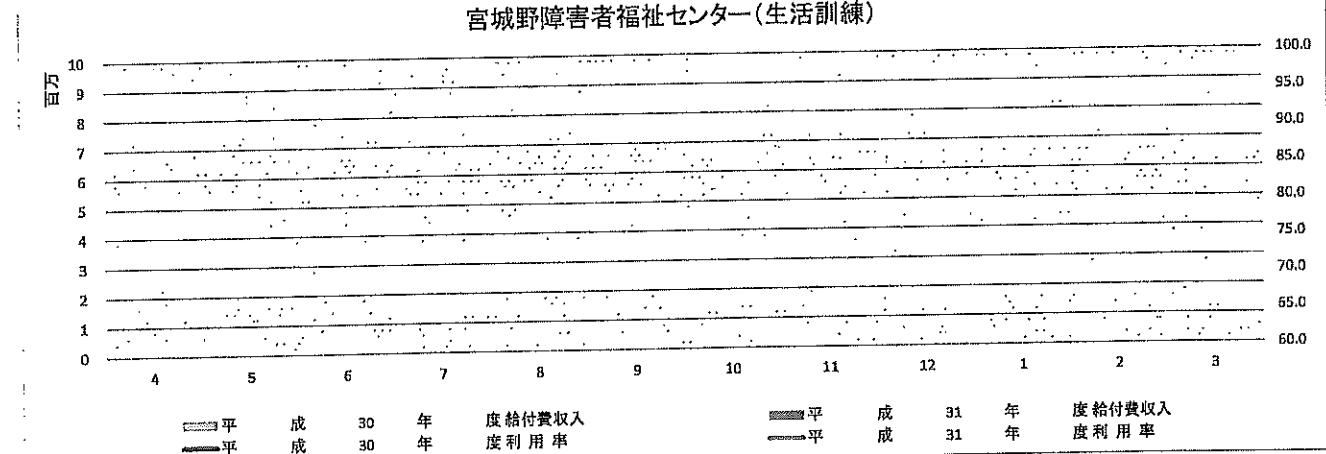
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	給付費収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成31年度	事業日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	給付費収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

宮城野障害者福祉センター(生活介護)



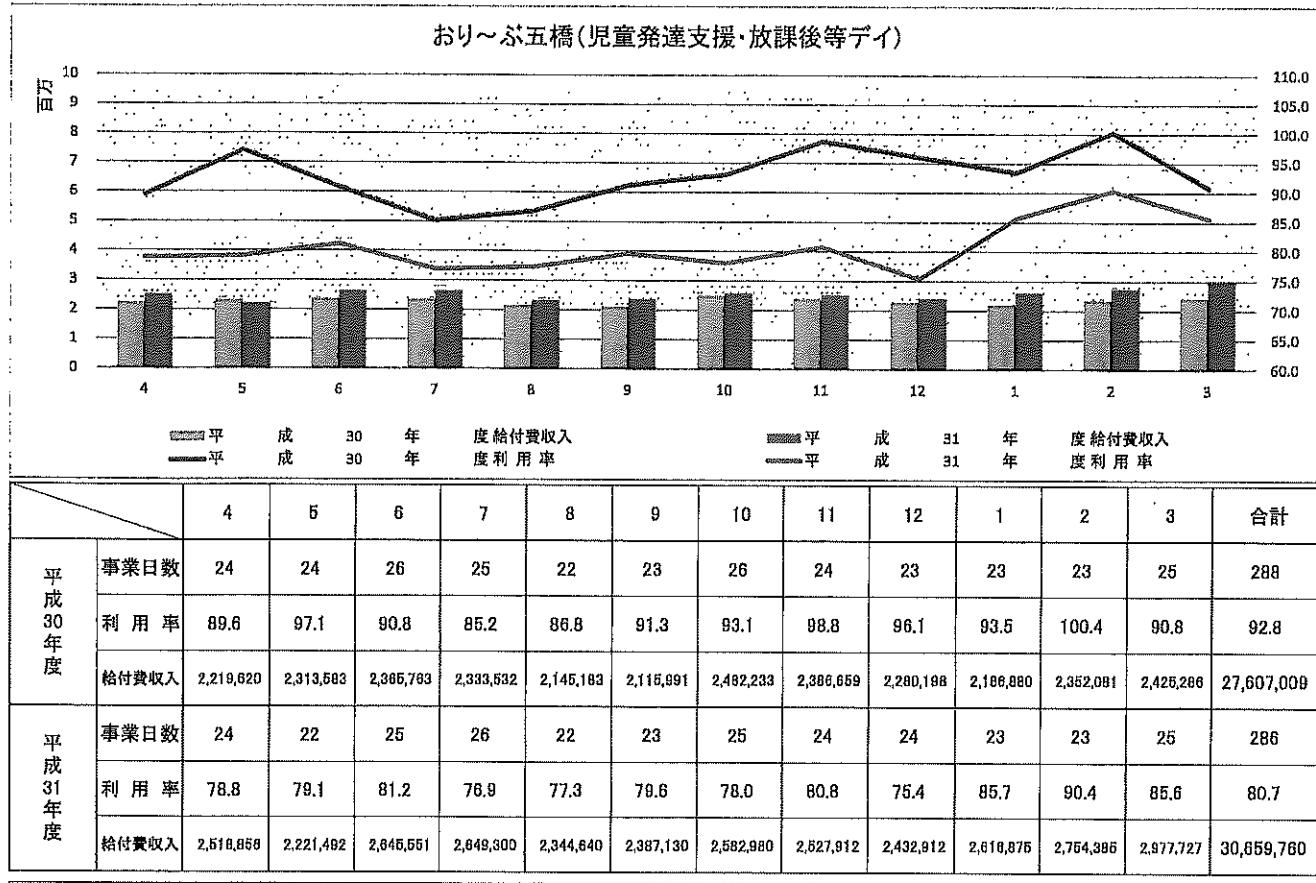
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	20	23	22	22	23	21	22	21	19	19	20	21	253
	利用率	92.2	94.3	98.1	97.0	92.6	100.0	97.1	98.1	94.7	94.7	93.9	97.1	95.7
	給付費収入	881,859	1,088,553	1,082,943	1,035,875	1,083,960	925,258	1,079,440	959,105	885,247	873,824	888,876	982,548	11,738,587
平成31年度	事業日数	21	23	21	22	23	20	22	22	19	19	20	20	252
	利用率	97.5	98.8	97.5	96.5	94.5	97.5	94.3	93.1	95.9	88.2	96.0	91.2	95.1
	給付費収入	744,343	823,281	747,943	793,871	820,804	736,325	810,294	788,114	699,615	685,803	715,858	839,524	8,986,383

宮城野障害者福祉センター(生活訓練)

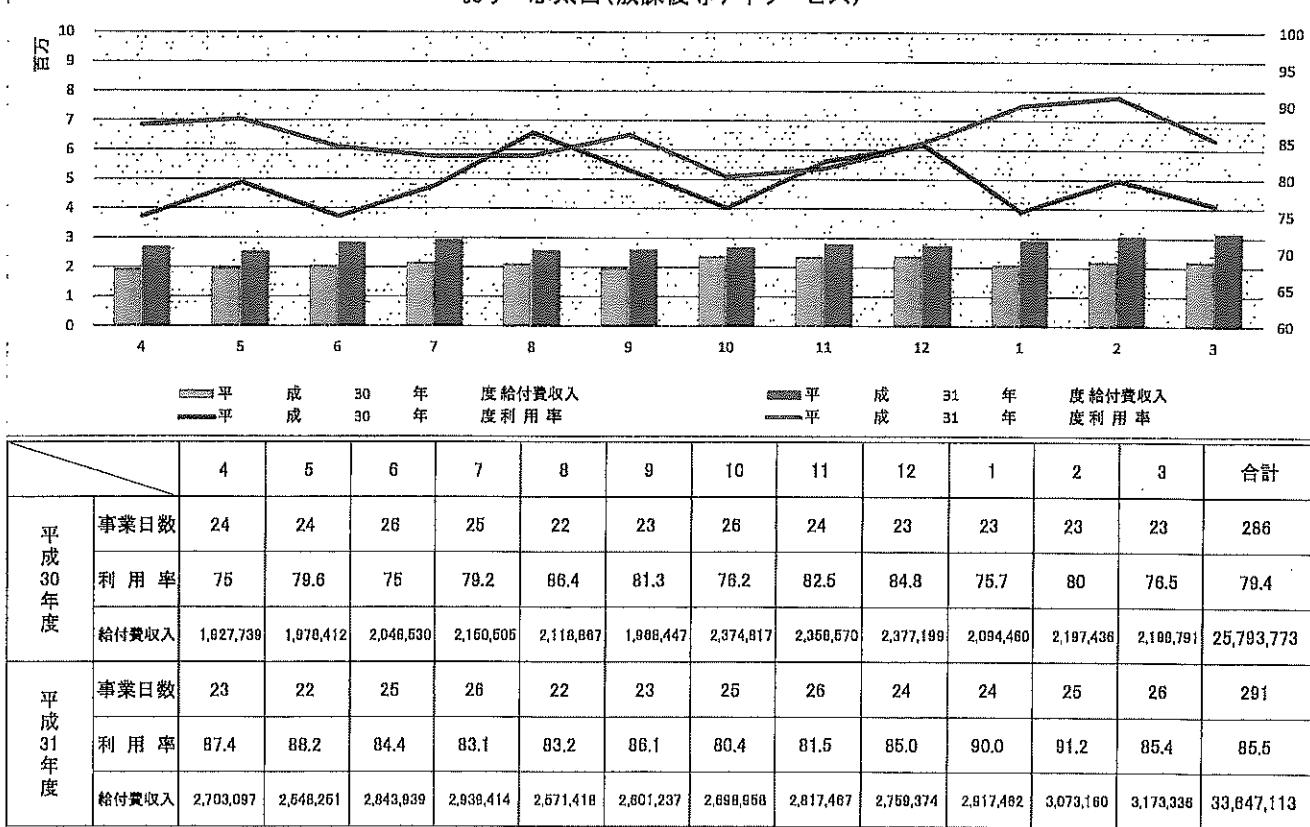


		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	給付費収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成31年度	事業日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	給付費収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

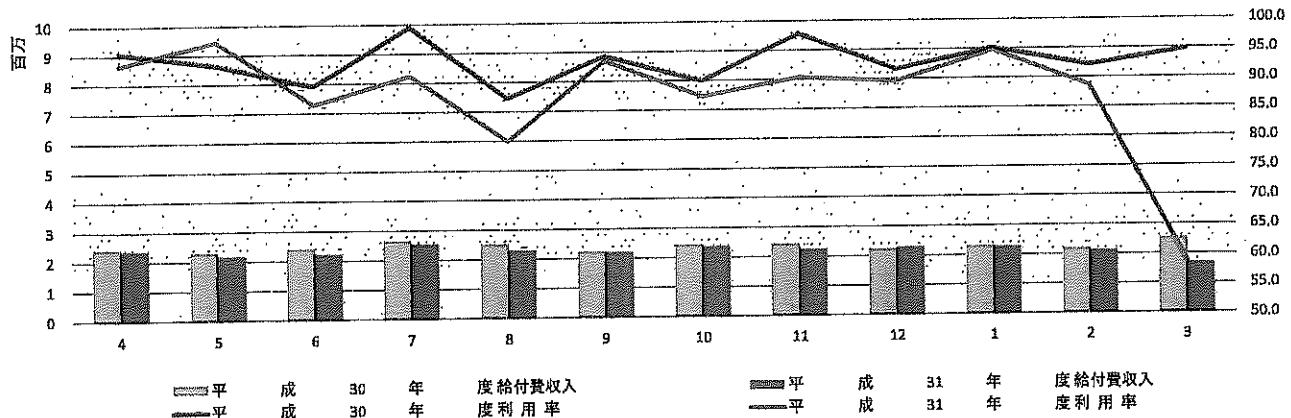
おり～ぶ五橋(児童発達支援・放課後等デイ)



おり～ぶ太白(放課後等デイサービス)

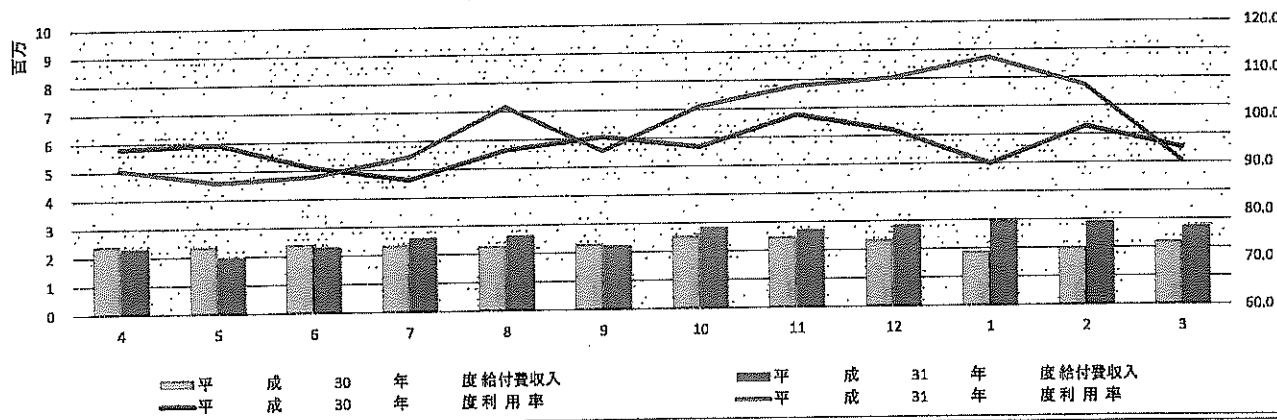


おり～ぶ上野山(児童発達支援・放課後等デイ)



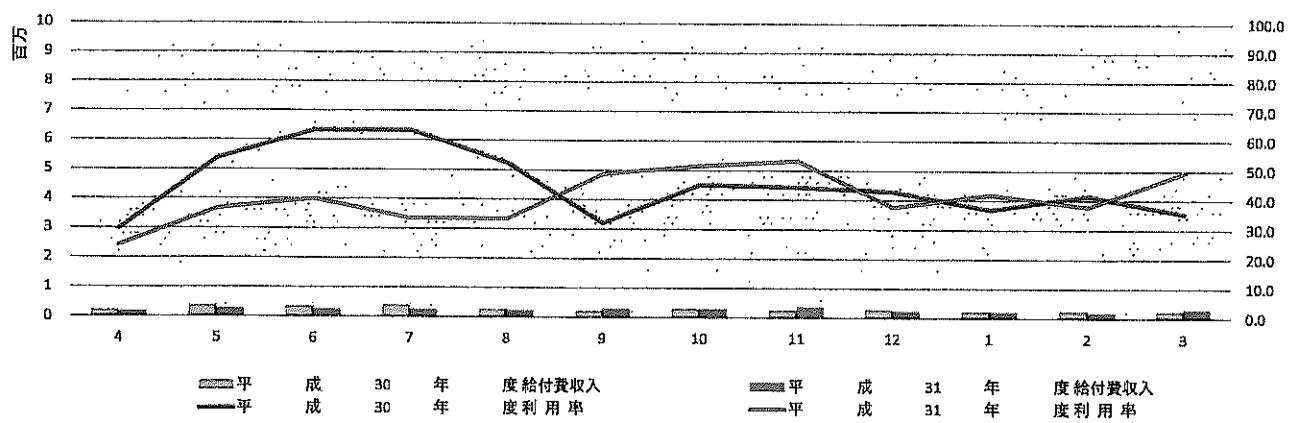
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25	292
	利用率	95.4	93.3	89.6	99.6	87.3	94.3	90.0	97.9	91.7	95.2	92.2	94.8	93.4
	給付費収入	2,439,524	2,307,564	2,409,006	2,658,684	2,618,543	2,248,802	2,438,114	2,441,284	2,236,946	2,307,743	2,193,234	2,540,698	28,740,242
平成31年度	事業日数	24	22	25	26	26	23	26	24	24	23	23	25	291
	利用率	93.3	97.3	86.4	91.2	80.0	93.5	87.3	90.4	89.6	94.8	88.7	58.8	87.6
	給付費収入	2,382,379	2,202,028	2,243,520	2,549,751	2,325,041	2,230,480	2,391,444	2,273,404	2,308,309	2,302,454	2,144,258	1,703,343	27,056,411

おり～ぶ鈎取(放課後等デイサービス)



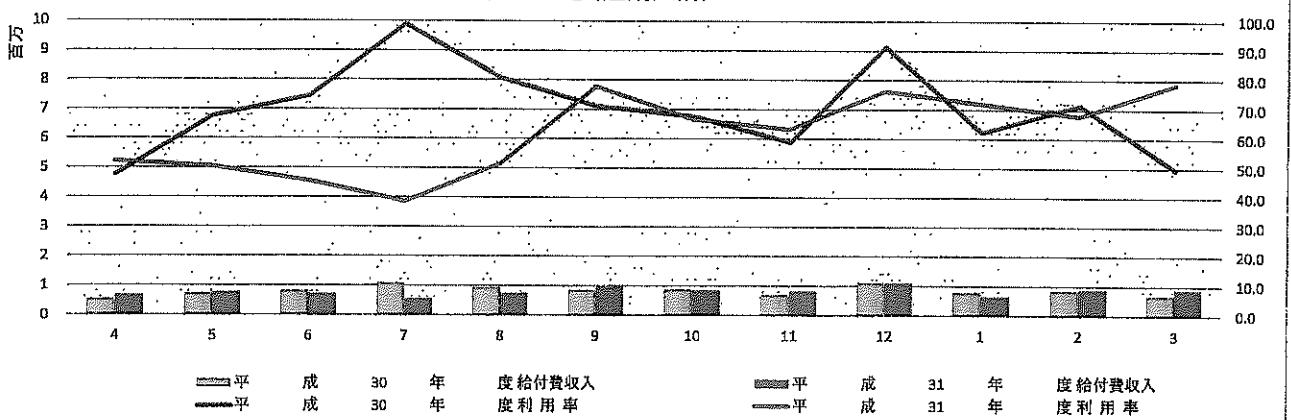
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	24	24	26	25	22	23	26	24	23	23	23	25	288
	利用率	95.0	95.8	90.7	88.0	94.0	96.5	94.2	100.8	97.3	90.0	97.8	93.2	94.4
	給付費収入	2,414,064	2,365,323	2,421,811	2,358,825	2,272,247	2,318,095	2,650,162	2,491,333	2,359,498	1,894,815	2,029,451	2,237,438	27,719,650
平成31年度	事業日数	24	22	25	26	23	23	26	24	24	24	25	26	292
	利用率	90.4	87.7	88.8	92.7	103.0	93.5	102.7	106.7	108.3	112.5	106.4	90.4	98.6
	給付費収入	2,324,300	1,898,998	2,323,300	2,614,140	2,652,446	2,254,231	2,053,377	2,747,273	2,871,089	2,987,815	2,908,434	2,758,687	31,272,089

サポートはぎ(レスパイト)



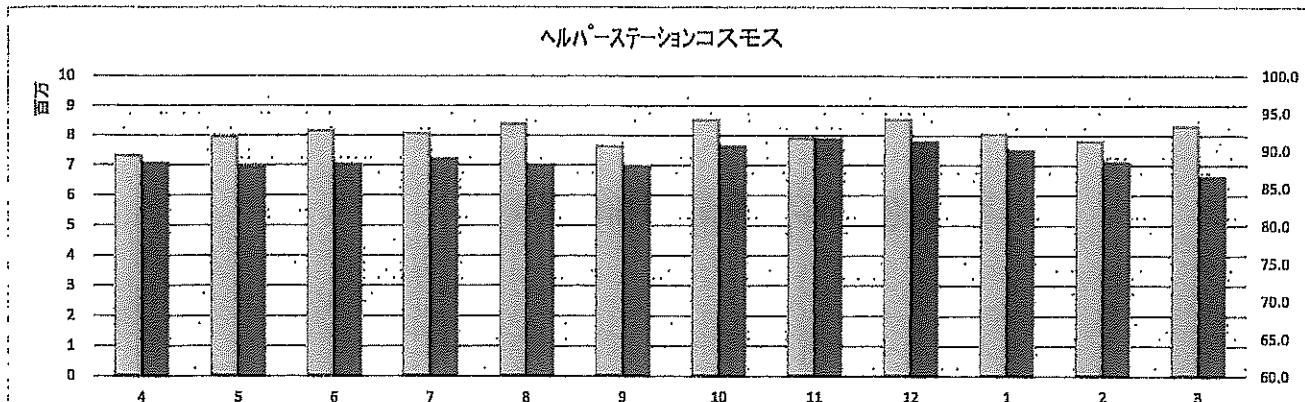
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	90	93	90	93	78	90	93	90	93	84	84	93	1,071
	利用率	30.0	53.8	63.3	63.4	52.6	32.2	45.2	44.4	43.0	36.9	41.7	35.5	45.2
	給付費収入	226,300	386,250	362,650	399,350	270,150	221,000	302,900	259,400	298,100	238,350	241,250	241,200	3,433,900
平成31年度	事業日数	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	87	93	1,098
	利用率	24.4	36.6	40.0	33.3	33.3	48.9	51.6	53.3	37.6	41.9	37.9	49.5	40.7
	給付費収入	190,100	284,500	269,800	275,800	238,050	308,300	305,900	390,400	244,350	230,050	198,750	311,650	3,253,650

サポートはぎ(短期入所)



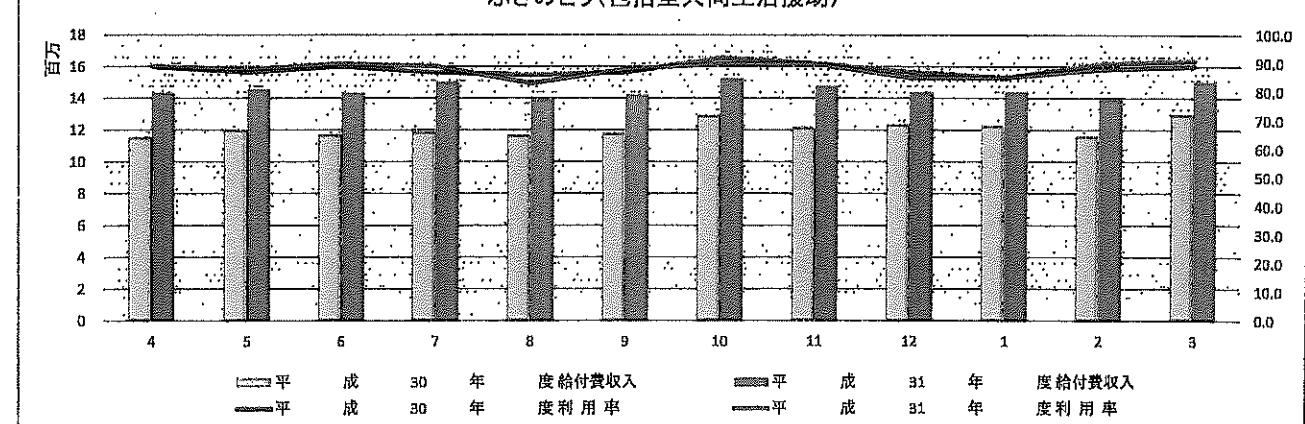
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	84	93	1,095
	利用率	47.8	67.7	74.4	98.9	80.6	71.1	67.7	58.9	91.4	62.4	71.4	49.5	70.2
	給付費収入	633,215	719,955	825,273	1,090,842	943,119	868,105	875,324	701,308	1,109,858	780,300	852,905	688,347	9,986,649
平成31年度	事業日数	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	87	93	1,098
	利用率	52.2	60.5	45.6	38.7	51.6	77.8	66.7	63.3	76.3	72.0	67.8	78.5	61.8
	給付費収入	887,113	778,032	790,563	659,488	747,107	974,929	853,234	832,226	1,108,290	860,136	872,781	882,855	9,685,514

ヘルパーステーションコスモス



		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	利用率													0.0
	給付費収入	7,362,569	7,084,784	8,196,175	8,120,265	8,432,883	7,875,473	8,582,728	7,953,425	8,583,837	8,098,428	7,865,837	8,366,071	97,191,354
平成31年度	事業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	30	29	31	365
	利用率													0.0
	給付費収入	7,115,408	6,989,753	7,081,846	7,268,724	7,081,608	7,016,942	7,877,132	7,933,539	7,839,142	7,551,088	7,147,822	8,889,918	87,352,919

ふきのとう(包括型共同生活援助)



		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成30年度	事業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	利用率	89.00	87	89	87	86	87	92	90	87	85	90	91	88.3
	給付費収入	11,598,652	12,020,091	11,720,640	11,927,460	11,709,080	11,034,890	12,035,866	12,160,622	12,367,289	12,301,339	11,649,098	12,884,156	145,227,581
平成31年度	事業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
	利用率	89	88	90	89	83	88	90	90	85	85	88	89	87.8
	給付費収入	14,327,759	14,689,432	14,360,547	15,050,813	13,934,953	14,227,150	15,268,604	14,750,905	14,389,297	14,409,768	13,929,435	15,049,880	174,274,103

事業報告の附属明細書

平成31年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する
「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

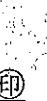
社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会
理事長 千葉 厚子

監査報告書

令和2年5月25日

社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会

理事長 千葉 厚子 殿

監事 熊谷道人 

監事 八子 清典 

私たち監事は、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの平成31年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方針により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討しました。

2 監査の結果

（1）事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（2）計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

